

12月5日（月曜日）

第2日目

令和4年12月5日（月曜日）

議事日程第2号

令和4年12月5日（月曜日）

開 議 午前10時

第1 一般質問

質 問

応 答

散 会

本日の会議に付した事件

日程第1 一般質問

1. 齊 藤 則 幸 君

(1) 空き家対策について

- ・ 空き家対策については、市独自の基準をつくり、スピード感を持って柔軟に取り組んでは

(2) 路面下の空洞調査について

- ・ 車道や歩道の空洞調査を、長期的な計画を立てて今こそ実行に移すべきではないか

(3) ふるさと納税自動販売機の設置について

- ・ これまでの返礼品目的のふるさと納税だけではなく、大館市のよさを感じた観光客が、再び訪問してもらえるふるさと納税にしていく取組が必要ではないか

(4) サニタリーボックスの設置について

- ・ 市役所や公共施設などの男性トイレにサニタリーボックスを設置しては

2. 柳 館 晃 君

(1) JR花輪線東大館駅駅舎建て替えについて

- ・ 令和4年3月定例会でも質問したが、その後の進展はあるのか。歴史的風致維持向上の観点から保存、再利用してもらいたい

(2) 不登校児童・生徒への対応について

- ① 本市の不登校児童・生徒の実態は
- ② 具体的な対応策はあるか

(3) 令和6年度に学校創立150周年を迎える市内小学校の記念事業について

- ・ 令和6年度に創立150周年を迎える小学校が本市に10校ある。記念事業を今から

準備すべきだが、教育委員会・市としてどのような対応をするのか

3. 田村儀光君

- (1) 2期目の総括と今後について
 - ① 2期目の総括について
 - ② 3期目はジャンプの4年間と思うが、どうか
- (2) 令和5年度予算編成について
 - ① 骨格予算、総合計画最終年度だが重要施策は何か
 - ② イベントの補助金の見直しについて
- (3) ふるさと納税について
 - ・ 積極的な取組と有効活用を
- (4) インランドデポについて
 - ・ 進捗状況はどうなっているのか
- (5) 病院事業について
 - ① コロナの現状と対応について
 - ② 扇田病院について

4. 花岡有一君

- (1) マイナンバーカードの交付率と地方交付税やデジタル関連交付金の配分について
 - ・ 交付率が全国平均より低いと減額されるのではないか
- (2) 旧小坂鉄道踏切の御成町一丁目付近の交差点に信号機を設置すべき
 - ・ 駅方面から御成町二丁目方向へ右折するのに三方向からの車に注意しなければならず、すごく危険であるが対策を講じてはどうか

5. 笹島愛子君

- (1) 学校給食費について
 - ・ 子育て応援の一環として、青森市のように給食費を無料化することはできないか
- (2) 生活保護基準について
 - ・ 生活保護基準は、物価高に見合う引上げを行うことが必要ではないか
- (3) 介護保険制度の改定について
 - ・ 介護保険制度の改定は「史上最悪」になる危険が。「改悪」から「改善」に改定するよう政府に求めることが必要ではないか
- (4) 中学校の制服について
 - ・ 寒さ対策としても、中学校の制服にズボンの着用を認めることはできないか
- (5) 持続可能な農業について
 - ・ 災害に強い農業、生活できる農業、安全な食料を生産できる環境づくりで若者の定着に結びつけられないか

(6) 扇田病院について

- ・ 来年の市長選に出馬される予定なら「扇田病院は守る」との方向性を改めて示し、市民が安心して新年を迎えられるようにするべきではないか

(7) 非核・平和都市宣言碑の移設について

- ・ 非核・平和都市宣言碑は、市民の目につきやすい場所に移設することなどについてどう考えるのか

6. 田中耕太郎君

(1) 林業成長産業化について

- ・ 林業成長産業化の取組が全国的に高い評価を得たが、どのような取組をして、どのような成果を得たのか。またゼロカーボンシティを宣言し林業振興策はますます重要となるが、今後どのような取組を行うのか

(2) 大館の風土を生かし、幸せを築く「まち再興」について

- ・ 人口減少と高齢化に悲観することなく新たな価値観を創造、共有し、誇りと希望を糧に市民が幸せを実感できる暮らしの実現に取り組んでほしい

出席議員（25名）

1番	柳館晃君	2番	石垣博隆君
3番	小棚木政之君	4番	武田晋君
5番	佐藤久勝君	6番	伊藤毅君
7番	日景賢悟君	9番	藤原明君
10番	田中耕太郎君	11番	佐々木公司君
12番	花岡有一君	13番	佐藤眞平君
14番	田村儀光君	15番	小畑淳君
16番	笹島愛子君	17番	小畑新一君
18番	斉藤則幸君	19番	岩本裕司君
20番	田村秀雄君	21番	佐藤芳忠君
22番	富樫孝君	23番	明石宏康君
24番	相馬エミ子君	25番	吉原正君
26番	菅大輔君		

欠席議員（1名）

8番 阿部文男君

説明のため出席した者

市長 福原淳嗣君

副	市	長	名	村	伸	一	君
理		事	北	林	武	彦	君
総	務	部	日	景	浩	樹	君
総	務	課	乳	井	浩	吉	君
市	民	部	成	田		学	君
福	祉	部	菅	原	弥	生	君
産	業	部	畠	山	俊	英	君
観	光	交	阿	部	拓	巳	君
流	ス	ポ					
ス	ポ	ー					
ツ	部	長	伊	藤	良	晋	君
建	設	部	吉	原	秀	一	君
病	院	事					
業	管	理					
者							
市	立	総	桜	庭	寿	志	君
合	病	院					
事	務	局					
長							
消	防	長	虻	川	茂	樹	君
教	育	長	高	橋	善	之	君
教	育	次	成	田	浩	司	君

事務局職員出席者

事	務	局	長	工	藤	仁	君
次			長	長	崎	淳	君
係			長	萬	田	文	君
主			査	石	田	徹	君
主			査	渡	部	慎	也
主			査	北	林	麻	美

午前10時00分 開 議

- 議長（藤原 明君） おはようございます。出席議員は定足数に達しております。
よって、これより本日の会議を開きます。
本日の議事は、日程第2号をもって進めます。
-
-

日程第1 一般質問

- 議長（藤原 明君） 日程第1、一般質問を行います。
一般質問の質問時間は、再質問を入れて1人40分以内と定めます。
質問通告者は12人であります。
質問の順序は議長において指名いたします。
なお、この際、質問者に申し上げます。質問制限時間10分前に予鈴1つ、5分前に予鈴2つ
をもってお知らせいたしますので、よろしく御協力をお願いいたします。
さらに申し上げます。再質問から一問一答方式で行われる方は、再質問の冒頭、質問席にお
いて申出をした上で、一般質問要旨の大項目単位で同一議題をまとめて行うよう申し上げます。
なお、同一議題についての質問は再々質問までとなりますので、御協力のほどお願いいたしま
す。
-
-

- 議長（藤原 明君） 最初に、斉藤則幸君の一般質問を許します。

〔18番 斉藤則幸君 登壇〕（拍手）

- 18番（斉藤則幸君） おはようございます。公明党の斉藤則幸でございます。12月定例会
トップバッターとして4点について質問しますので、市長から元気の出る希望あふれる答弁を
期待しまして、通告に従い順次一般質問に入らせていただきます。

初めに、**空き家対策**についてお伺いいたします。空き家対策については、市独自の基準をつ
くり、スピード感を持って柔軟に取り組んではについてお伺いいたします。近年、市内を歩い
ていると、随分空き家が増えていることを実感いたします。朽ち果てて、そのままにしてお
くと、隣の家に被害が及ぶのではないかと心配になるような空き家も見かけます。特に大雨の
ときなどは、屋根のトタンがばたんばたん風にあおられている空き家を目にすることもありま
す。空き家には、家屋の倒壊に及ぶ危険性が絶えず付きまとい、安全面での問題のほかにも、
悪臭やごみの不法投棄、雑草の繁茂など、衛生面での問題や景観の悪化など様々な問題があり
ます。また、私が直接相談を受けたケースでは、冬に空き家の屋根の雪が今にも道路に落ちそ
うになって非常に危ないという市民からの相談がありました。特に、夜に近くの店に買物に行
くときがとても怖かったという相談でした。私も現地を確認しましたが、今にも屋根から大量
の雪が滑り落ちそうになっていました。幸いにも、危機管理課の対応がとても早く、事故を未

然に防いでいただきました。しかし、空き家の雪下ろしは対応がとても難しいと話していました。確かに、連絡がつけば対応もできますが、連絡がつかない場合は非常に困難ということでした。こうした課題が空き家にはあります。今、市でも空き家対策に様々取り組んでいるかとは思いますが、私は、国の基準だけにこだわらず、危険な空き家については市独自の基準をつくり、スピード感を持って柔軟に取り組み、解体を促進させる施策をぜひ進めてほしいと思います。特に、通学路でいつも児童・生徒が通る歩道に、明らかに空き家と思われる屋根の雪庇が今にも滑り落ちそうになっているところを見かけたことがあります。こうしたときの対応などは、今から考えておいてもよいのではないのでしょうか。本市の空き家の状況や、危険性が想定されている空き家については、市でも掌握されていると思いますが、緊急度が高い建物については、事故が起きてからではなく、早めの対応をお願いしたいと思います。危険空家等解体撤去の件数を見ると、補助金制度が創設された平成29年度が10件、平成30年度が11件、令和元年が12件、令和2年度が7件、令和3年度が5件となっております。明らかにコロナ禍の影響があるとは思いますが、昨年度は補助金制度が創設してから最低の件数になっています。国では、平成26年11月に空家等対策の推進に関する特別措置法が交付され、平成27年5月に完全施行となりました。法律施行からかなり経過しているため、また、高齢者の独り世帯も増えていることを考えると、その後の空き家は増えているのではないかと想定します。空き家対策について市長のお考えをお聞かせください。

次に、**路面下の空洞調査**についてお伺いいたします。車道や歩道の空洞調査を、長期的な計画を立てて今こそ実行に移すべきではないかについてお伺いいたします。大館市の陥没で特に思い出すのが、平成28年2月に起きた市道大町山館線の歩道の陥没事故があります。この陥没については、当時行政報告があったと記憶しており、あのとき私も現場を見ましたが、かなり大きな陥没で大変驚いた記憶があります。埋設物が上下水道や電力、有線放送の配線・配管など、複雑な状態で敷設されていました。幸いにも、こうした大きな陥没はその後発生していませんが、何もないときにこそ長期的な計画を立て空洞調査をするべきではないかと思います。空洞発生の原因については、集中豪雨や局地的大雨、さらに道路の冠水が発生し路床が流出すること、さらに上水道・下水道などの地下埋設物の老朽化・劣化などいろいろと言われております。特に最近では、地球温暖化の影響なのかゲリラ豪雨などが頻繁に起き、多くのインフラも影響を受けております。本市では、長倉交差点から新町交差点までの両側歩道について既に調査を終えています。こうして地道に調査していくことが必要ではないかと考えます。大館市管内では、市道部分だけでも令和4年4月1日現在で1,814路線、およそ899キロメートルもあります。事故を未然に防ぐためにも、児童・生徒が毎日歩く歩道や緊急時に消防車や救急車が日夜走る命の道路は、特に最優先に空洞調査を実施すべきではないでしょうか。2016年11月に起きた福岡市のJR博多駅前の陥没事故は、まだ記憶に新しいところでもあります。現在の空洞調査は、科学技術の急速な進展によって、マイクロ波を活用して脆弱な部分を比較的早く見

つけられるようになりました。私が以前テレビで見たのは、車載型のスケルカによって時速50キロメートルくらいで走行させながらデータ採取をするもので、交通規制などは一切必要がありませんでした。本市では、目視による道路パトロールを強化していると聞いていますが、路面下の空洞については、地中レーダー技術を活用しないと簡単には分からないのではないかと思いますがいかがでしょうか。今年8月3日からの大雨は本市にも様々な影響があり、床上浸水や床下浸水、また橋の崩落や田んぼの冠水、さらに下内川の決壊など大きな被害がありました。私は、道路の地盤などにもかなり影響が出ているのではないかと思います。歩道や車道はどちらも私たちの生活に必要なものであり、市民の安全・安心のためにもぜひ検討してほしいと思います。市長のお考えをお聞かせください。

次に、**ふるさと納税自動販売機の設置**についてお伺いいたします。これまでの返礼品目的のふるさと納税だけではなく、大館市のよさを感じた観光客が、再び訪問してもらえるふるさと納税にしていく取組が必要ではないかについてであります。今、全国でふるさと納税を増やすために、各自治体ではいろいろ知恵を絞り工夫をしていますが、最近、ぽつりぽつりとふるさと納税自動販売機を設置する自治体が増えてきています。多少自治体によって違いはありますが、地場産品や観光体験などに魅力を感じ、共感した観光客がその場で訪問先の自治体にふるさと納税をする方法が一般的な仕組みとなっています。飲物を買う感覚で簡単に手続きができ、その場で商品券などの返礼品を受け取れる利便性のよさが人気の高さにつながっているようです。この自動販売機設置の魅力は、これまでの返礼品目的のふるさと納税だけではなく、例えば、大館市のよさを実感した観光客が再び訪問につながる、共感型の取組が魅力ではないかと私は思います。一般的な利用方法は、自動販売機のタッチパネルで①返礼品を選択、②運転免許証を読み取り、③寄附方法を選択、④レシートを受付に渡す、⑤その場で返礼品と交換といった方法が一般的な仕組みです。なお、税控除に必要な書類は後で自宅に届きます。非常に簡単な方法だと思います。さて、過去最多だった2021年度の本市のふるさと納税の寄附額は9億3,016万円でした。今後さらに増やすために、自動販売機設置は効果があるのではないのでしょうか。以前、職員から「ふるさと納税は、12月の駆け込み需要がすごいですよ」と聞いたことがあります。自動販売機だと、それとは別に平均的な需要が見込めるのではないかと思います。また自治体によっては、帰省したとき自動販売機があれば、応援しようと納税する人もいるのではないかという期待もあります。設置場所によっては、自動販売機限定の返礼品だけではなく、その場で使えるクーポンやチケットが手に入るなど、ポータルサイトにはない魅力もあります。ふるさと納税自動販売機の設置を、ぜひ検討していただきたいと思いますが、市長のお考えをお聞かせください。

最後に、**サニタリーボックスの設置**についてお伺いいたします。市役所や公共施設などの男性トイレにサニタリーボックスを設置してはについてお伺いいたします。今、秋田県内の自治体でも、男性用トイレにサニタリーボックスを設置している自治体が増えてきています。これ

は、前立腺がんや膀胱がんの手術を受けた方が増えてきていることも関係しているのではないかと思います。がんになっても自分らしく生きることのできる社会を実現することは、とても大切なことではないでしょうか。また、高齢者の方で尿漏れパッドを使用している人が、安心して外出していただけるようにとの配慮から、設置が最近増加している理由ではないかと思います。さらに災害対策などにも有効であり、また、トイレを清潔に使用するためにも必要ではないかと思います。全国的には、市役所やスポーツ施設、公共施設や小・中学校の教職員トイレなどにも導入されてきております。男性からの「必要だと思っけていても、なかなか言い出しにくい」という声が、今まで話題に上がらなかった原因かもしれません。男性の場合、尿漏れケアのために、やむなく使用済みの物を持ち帰っていた人が今まではいたのではないかと思います。もし個室にサニタリーボックスがあれば、トイレトペーパーに包みその場で捨てることも可能になります。サニタリーボックスの設置について検討していただきたいと思いますが、市長のお考えをお聞かせください。

以上で私の一般質問を終わります。どうもありがとうございました。(拍手)

〔18番 齊藤則幸君 質問席へ〕

〔市長 福原淳嗣君 登壇〕

○市長（福原淳嗣君） ただいまの齊藤則幸議員の御質問にお答えいたします。

まず、大きい項目の1点目であります。空き家対策を推進するために、大館市では、大館市空家等対策計画を作成し、特に危険な空き家については、まずは所有者への適正な維持管理の指導や解体撤去を推進しております。この中で再利用が可能な空き家については、空き家バンクや不動産業者等の紹介、リフォーム支援事業の活用など、関係団体と総合的に連携しながら取り組んでおります。空き家は個人の財産であり、所有者が自らの責任によって適正に管理することが大原則であります。屋根からの落雪など、危険な状態と判断される場合においては、条例に基づき危険排除のための最低限の応急的な措置を行い、安全の確保に努めているところであります。空家等対策の推進に関する特別措置法に基づき、倒壊のおそれがある、特に保安上危険な空き家については、特定空家等に認定した上で、危険空家等解体撤去費補助金を活用した解体撤去を推進しておりますが、現在は燃料費、廃材処分費等の値上げによる解体工事費の高騰などにより、齊藤議員御紹介のとおり、確かに解体件数が減少傾向になっております。このため、特定空家等には該当しないものの、一定程度の危険性がある空き家については、専用住宅に限らず、商店などの事業用として一部使用していた併用住宅に対しても柔軟に補助できるよう、現在、制度の拡充を検討しているところであります。また、来年度には4年ぶりとなる空き家等現況調査を予定しております。空き家の戸数や状況等を把握するとともに、所有者のモラルハザード、つまり所有者の倫理観が欠如しないように、危険な空き家とならないよう、所有者や相続人を対象とした利活用やリスクを学ぶセミナー、個人相談会の開催も検討しております。特に政府においては、この空き家に関しては保安上の問題だけではなく、治安、

景観、生活環境の悪化など、まちづくりにも支障となることから、空き家対策を喫緊の課題として捉えております。今週末と記憶しておりますが、実際の住居の量が、日本国民全体の2割も余っているということを国土交通省が発表しました。つまり、これからは空き家の利活用、一店舗の空き家だけではなくて、跡地を総合的に利用することを誘導するための固定資産税の見直しなども含めた抜本的な議論が現在されております。今後も、こうした情報をしっかりと収集しながら、大館市における空家等対策計画にきちんと組み入れ、スピード感を持って取り組んでいきたいと考えております。

大きい項目の2点目であります。空洞調査については、平成28年度に長倉交差点から新町交差点まで、地中レーダー探査器を使った調査を行いました。斉藤議員御紹介のとおりであります。実は、その後も継続して周辺の水路や暗渠などを目視により調査するとともに、道路パトロールをする時点での点検を強化してきたところでもあります。今後は、道路の安全性が確保されるよう、道路工事調整会議において道路占有者に対して空洞化対策への協力を要請するなど、陥没事故の防止にこれまで以上に努めていきたいと考えております。また、今後実施する調査や、将来的には市内全域に導入していく、いわゆる道路等の包括的民間委託の中の包括管理業務委託に当たっては、斉藤議員御紹介の車載型のスケルカ、それから路面下空洞探査車のほか——実は先般、秋田広域観光フォーラムで、地方空港で業績を伸ばしている南紀白浜空港の岡田社長に講演していただいたのですが、あの空港はコストを抑えるためにドライブレコーダーを搭載した車で滑走路やエプロンを通すのです。それを東京の会社に伝送して、東京の会社でAIで分析するのです。非常に面白かったのが、目視よりもはるかに正確なのだそうです。コストも抑えられた上に、ドライブレコーダーでAI解析するほうがはるかにいいそうです。こういったドライブレコーダーを利用したAI画像解析技術などの活用も考えております。迅速かつ正確な結果が得られる方法を検討しながら、引き続き、道路の安全確保に努めていきたいと考えております。

大きい項目の3点目であります。今年度の本市ふるさと応援寄附推進事業については、まずは目標額10億円の達成に向けて、ふるさと納税事業者会や大館商工会議所と課題を共有しながら、体制の見直しや関係性を築いてきたノウハウを持つ企業との連携を図っているところであります。また先月、11月12日、13日の両日に、3年ぶりに横浜市で開催された感謝イベントに職員が生産者の皆さんと一緒に参加しまして、直接、御寄附いただいた方々に御礼と今後の支援のお願いをしたところであります。斉藤議員御提案のふるさと納税自動販売機の設置ですが、インターネット環境がなくても寄附できる手軽さと、その場で返礼品を受け取ることができるスピード感が魅力です。ですので、あえて体験型メニューで大館に来てもらい自動販売機の前も通ってもらうなど、そういう組合せも私はあると思っています。その可能性については、関係者の皆さんとともに積極的に研究していきたいと考えております。今後も、ふるさと納税を活用した本市の魅力発信や、趣向を凝らしたプロモーションを積極的に行いながら、

関係人口の拡大を通じた寄附額のさらなる増加に努めていきたいと考えております。

大きい項目の4点目であります。サニタリーボックスについては、あまり言いたくありませんが私自身が実感しております。4年前の開放骨折で、本当になくてはならない物だということを痛感しております。市役所本庁舎の来客用男子トイレは5か所あります。その中の各個室にサニタリーボックスは現在設置していないのですが、8か所ある多目的トイレには設置しております。お問合せいただいた場合は、この8か所ある多目的トイレを御案内するようにしております。議員御紹介のとおり、トイレにサニタリーボックスがあれば使用済みのパッドなどを持ち帰らずに廃棄できます。安心して外出できると私も思います。病気や障害を持つ皆さんが、適切な医療や支援により社会とのつながりを維持し、かつ生きがいを持ち続けられるような社会をつくっていくことは、先導的共生社会ホストタウンの認定を頂いた大館市のミッションだと思っています。きめ細かな配慮をすべきと考えております。本庁舎以外の市の施設につきましても、各施設での設置状況や利用者の状況を踏まえて、積極的に検討してまいります。

以上であります。よろしく御理解を賜りますようお願い申し上げます。

○18番（齊藤則幸君） 議長、18番。

○議長（藤原 明君） 18番。

○18番（齊藤則幸君） 1点だけ再質問いたします。一問一答でお願いいたします。空き家対策についてですが、今の市長からの答弁で大体理解できました。これから本格的な冬を迎えるわけですが、やはり空き家の屋根の雪が一番心配です。所有者に連絡がつく場合もあると思いますが、中には連絡がつかない場合もあるのではないかと思いますし、そのためにも、ぜひ消防署と連携を密にしてほしいと思います。市と協議会があるのかどうか分かりませんが、いざという時のために市の持っている情報を消防署と共有していただけないのかと私は考えております。この点について、市長のお考えがあればお伺いいたします。

○市長（福原淳嗣君） 議長。

○議長（藤原 明君） 市長。

○市長（福原淳嗣君） ただいまの齊藤則幸議員の再質問にお答えいたします。私も全く同じ考えでありまして、実は危機管理課と消防は人事の面においてもつながりを持っていますので、情報の共有は図られておりますので御安心いただきたいと思います。あと、先般行われた秋田県市長会で、雪寄せ場の議論と空き家対策の議論が重複してくる場合がすごく増えました。そういうことも含めて、今国土交通省のほうで住宅の対策として行うのか、それとも一つの地域の固定資産の下落というか、きっちりある程度の面を確保できれば次の投資を呼び込めるので、次世代型の投資を呼び込む呼び水としてきちんと議論するという2つの方法があります。そこも踏まえた上で、否定的な政策として捉えるのではなくて、次の大館のまちづくりに資する政策だという建設的な位置づけをした上で、情報に関しては消防と市で共有していくことが一番望ましいと考えておりますこともぜひ御理解いただきたいと思います。

○議長（藤原 明君） 次に、柳館晃君の一般質問を許します。

〔1番 柳館 晃君 登壇〕（拍手）

○1番（柳館 晃君） 皆さんおはようございます。令和会の柳館晃であります。令和4年も残すところあと僅かになりました。月日のたつのは本当に早いものだと思う今日この頃であります。新型コロナウイルスは一向に収束の兆しが見えず、第8波が猛威を振るい、今年2月に始まったロシア・ウクライナ戦争もまた一向に収束の兆しが見えず、泥沼化の一途をたどっています。今年は暗い話題ばかりではありましたが、そのような中でも本市は、徹底した新型コロナウイルス感染症対策を実施しながら、大館神明社祭典、肉博、本場大館きりたんぼまつり等の行事を通常どおりに開催したことは、明るい兆しとともに、コロナ禍以前の日常に戻る準備に入る一年だったと言えるのかもしれません。さて、本日は午前中ということではありますが、田代地区の行政協力員の皆さん、常会長の皆さんが傍聴にお見えになっているということで、私の次に質問する予定になっている田代町山田の例のお方が、田代地区の皆さんがいるうちに何とか自分の質問を聞いていただきたい、日頃頑張っているいいところを見せたいということで、私には要点をまとめて簡潔に、及び内容を濃く質問するよう、また、再質問もきっちりと要点をまとめてするというお願いと指示がありました。早速それを守って、日頃お世話になっている方でありますので前座を務めさせていただきます。今回は3点について、通告に従って質問をさせていただきます。

まず1点目、**J R花輪線東大館駅駅舎建て替えについて**であります。私は、今年の3月定例会でもこのことについて質問をさせていただきましたが、駅舎の保存、再利用についてのJ R側との折衝は、その後の進展があるのかをお尋ねいたします。現在、8月の大雨で、花輪線は運行不能という状態が続いておりますが、来年の春には復旧するということでもあります。止まったままになっている現在だからこそ、私の町内会や近隣の町内会の皆さんも、やはりこの東大館駅の行く末を気にしています。歴史的風致維持向上計画の観点からも、何とかこの駅舎を維持、保存、再利用してもらえないものかという相談をよくされております。そればかりではなく、この駅舎を利用して、週一回、10日に一回でもいいので、秋田内陸縦貫鉄道の合川駅のように、産直のようなイベントを開催してほしいという声もあります。我々の住む地区は、何回も申し上げておりますが、昔はスーパーマーケットや八百屋、肉屋、その他生活に必要な物は全てそろった地域でありましたが、今はその全てがなくなっております。せっかくある駅を、駅の機能だけではなく、地域の人たちの気軽に集まれる場所ということも模索してほしいという声もあります。どうかこのような意見や希望をかなえることができるように、J R側との粘り強い交渉をしていただきたいと思っております。

2点目であります。**不登校児童・生徒への対応について**であります。本市の不登校児童・生徒の実態は、具体的な対応策はあるかについてであります。先日、本県の国公立小・中学校の

2021年度の不登校者数は前年度比279人増の1,343人、過去最多となったという報道がありました。県教育庁によると、不登校児童・生徒は、小学校で前年度比89人増の369人、中学校で190人増の974人、高校で69人増の342人。千人当たりの不登校児童・生徒数は、小学校が2.5人増の9.4人、中学校が9人増の44.2人、高校が3.7人増の16人といずれも増加傾向で、特に中学生での増加が目立つということでもあります。県の義務教育課は原因について、新型コロナによる学校閉鎖や家族の濃厚接触による断続的な自宅待機により、生活リズムが乱れがちになったと分析しております。原因はコロナ禍ばかりではなく、様々な要因が考えられると思いますが、本市の不登校児童・生徒の実態はどうなっているのかをお尋ねいたします。また、この不登校問題について具体的な対応策はあるのか、ふるさとキャリア教育を実践している本市としての特別な取組はあるのかも併せてお尋ねいたします。全国的には不登校児童・生徒数は24万4,940人、2020年度より実に24.9%、4万8,613人も増えて、過去最多だったということでもあります。本県、本市の実態はそこまではいいはないものの、不登校問題は喫緊の課題と捉えて真摯な取組をしていただきたいと思います。

3点目であります。令和6年度に学校創立150周年を迎える市内小学校の記念事業について、今から準備するべきであるが、市及び教育委員会としてどのような対応をするのかについてであります。本市では、令和6年度中に学校創立150周年を迎える小学校が、桂城、城南、釈迦内、川口、成章、花岡、矢立、扇田、西館、東館と実に10校に上ります。それ以外の小学校も統廃合を経て今の状態に至っているため、この創立150周年とは何かしらの関連があるのではないのでしょうか。現に私の住む地域の城西小学校は、学校創立60周年を迎えたばかりですが、旧片山小学校、旧古館小学校、桂城小学校、城南小学校の一部を統合してできた小学校なので、この学校創立150周年とは関わりを持っていると思います。これまで記念事業は、各小学校でそれぞれ準備、開催していましたが、急激な少子化に伴う児童数の減少、それに比例して保護者数も減少しております。昨今は共働き家庭がほとんどで、PTAをはじめ学校行事への参加、協力が難しくなっているという声も多々聞かれます。そこで提案いたしますが、ふるさとキャリア教育を実践している本市としては、長い歴史の節目に当たるこれらの小学校の創立150周年行事を重要な事業と捉え、積極的かつ前向きに関わっていただきたいと思います。予算措置をしても様々な行事、合同の式典を開催するなど、教育都市大館市にふさわしい対応をお願いいたします。全ては未来を担う子供たちのためであります。よろしく願い申し上げます。

質問は以上であります。御清聴ありがとうございました。(拍手)

〔1番 柳館 晃君 質問席へ〕

〔市長 福原淳嗣君 登壇〕

○市長(福原淳嗣君) ただいまの柳館晃議員の御質問にお答えいたします。

まず大きい項目の1点目であります。JR花輪線東大館駅舎の整備につきましては、学識経

験者や利用者、建築士会、不動産業など幅広い業界、関係団体の方々に、保全活用や必要な施設機能など様々な観点から検証するワーキンググループに参画いただき、去る9月6日に座長であります秋田県立大学の板垣教授から、駅舎整備に向けた御提言を頂いたところであります。その中では、柳館議員御紹介のとおり、私も非常に思い入れのある駅でありまして、現駅舎を「大火に見舞われた市街地にあっても、市民と共に生きてきた文化的価値のある貴重な建造物」と評価していただいたところであります。また、このワーキンググループを通じて、具体的な補強案や維持管理費の算定のほか、利用頻度が高い高校生のニーズ、現に使っている高校生の皆さんの声や、トイレなどの衛生環境についても実に多くの意見を頂いております。これらを基に、駅舎を活用しながら残すことを前提として検証し、同時にJR側と費用負担やスケジュール等の協議を進めているところであります。先ほど斉藤議員の御質問にお答えしましたが、先般行われた第3回秋田広域観光フォーラムにおきましては、JR東日本の親会社の幹部の皆さんも多数御来館いただいて、その中で時間の調整が合う方には直接市長室に来ていただきました。なぜ来ていただくかということ、実は花輪線のNゲージを飾っていて、それぐらい思い入れが強いのだということを中心にPRしています。そうすると面白いことに、先般8月の豪雨で花輪線が崩壊したところがあるということで要望活動を行った関市長から、花輪線に関しては私以上に大館の福原市長のほうが思い入れが強いのだということ、はっきり言ってくれるというようなこともあり、花輪線沿線自治体の首長さんの方向性も、大分同じ方向を向いてきたのではないのかと考えています。こうしたものをきちんと押さえた上で、整備に当たっては民間事業者の参入を見据え、協議・交渉の進捗に合わせて議会へ御報告します。そして、駅舎の保全活用に努めていきたいと考えていますので、ぜひ御理解をお願いいたします。また柳館議員におかれましては都度建設的な提案を頂いておりますこともあり、先般行われたガストロノミーウォーキングも中山地区を歩いて回ったのですが、花輪線があるからこそ残ってきた物語と親和性が物すごくあり、ただ単に東大館駅だけではなくて、老犬神社に行くとなったらどこなのだろう、曲田のハリストス正教会はどこなのだろう、鎌倉殿の13人でちょっとしか出てこなかったけれども錦神社と扇田駅など、花輪線はそういった物語が結構たくさんありますので、そういうものを深掘れる花輪線なのだということも備えていきたいと思っておりますし、もし時間があれば盛岡支社にぜひ一緒に勉強を兼ねて行きたいということも申し上げたいと思います。

大きい項目の2点目につきましては、後ほど高橋教育長からお答え申し上げます。

大きい項目3点目です。柳館議員御紹介のとおり、本市においては明治7年に開校した桂城、城南、釈迦内、川口、成章、花岡、矢立、扇田、西館、東館の各小学校が、令和6年度に創立150周年を迎えます。私の母校は城南小学校でありますので、やはり150年を迎えるということ誇らしく思います。これまでも100周年記念などの節目には、まず式典が行われました。そして、各校の特色を生かした記念事業が行われてきました。150周年においても様々な催しが

企画されるものと考えております。既に各校では実施内容などを検討していると伺っております。今後事業が具体化した際には、市としましては、地域の皆様と一緒に150周年を祝うとともに、未来の大館を担う子供たちの記憶に残る記念事業となるよう積極的に支援していきたいと考えております。また、柳館議員御指摘のとおり、式典などの開催準備が保護者にとって負担となることを懸念する声も確かにあります。開催方法については、教育委員会を含めた学校側ときちんと協議をしていきたいと思っております。このことに関しても柳館議員がおっしゃているとおり、ふるさとキャリア教育を展開する大館において、全ては未来を担う子供たちのためにしっかりと取り組んでいきたいと思っております。

以上であります。よろしく御理解を賜りますようお願い申し上げます。

○教育長（高橋善之君） 柳館議員の御質問の(2)不登校児童・生徒への対応について、①本市の不登校児童・生徒の実態は、②具体的な対応策はあるかについてであります。これらについては関連がございますので一括してお答え申し上げます。昨年度の大館市の不登校児童・生徒——これは欠席日数30日以上の子供・生徒でございます——その状況は小学生27人、中学生64人、計91人でした。児童・生徒千人当たり換算した出現率については、全国平均が25.7人に対し本市は22.1人であり、依然として全国平均を下回っている状態です。とはいえ、大館市としての経年変化を見ると、平成28年度までの出現率は10人未満であったものが、平成29年度には15.3人、平成30年度からはほぼ毎年20人を超え、ここ5年を通して高止まりしている状況です。先ほど、コロナ休校の影響ではという県教委の見解がございましたが、実はコロナ禍が始まる以前の平成29年度、30年度に急増しているというところに注目していただきたいと存じます。具体的な対策を考えるに当たり、まず分析すべきは不登校児童が急激に増加した要因なのですが、これについては、ネットゲーム依存の影響があるものと認識しております。不登校児童・生徒の生活状況の詳細は把握することが難しいのですが、様々な情報からネットゲーム依存が強く疑われるケースが毎年少なくとも30件以上はあります。また、大館でも不登校児童・生徒が急増し始めた平成29年度は、子供たちにネットゲームが浸透した時期と重なっております。このことから、ネットゲーム依存により生活が乱れ不登校へと陥るなど、不登校児童・生徒の急激な増加とネットゲーム依存には、密接な相関関係があるものと分析しております。とすれば、ネットゲーム依存予防策が有効な不登校対策となるわけで、これについては小学校低学年からメディアコントロール力を高める指導、保護者に向けての啓発活動を様々な機会を捉えて続けております。しかし、最終的には家庭の中で発生する問題であることから、これを外部の力で食い止めることは極めて困難な問題でもあります。保護者への啓発については小学校入学後では既に手遅れとの見解も多く、現在、幼保小架け橋プログラムにおいて、就学前の子供を持つ保護者を対象に働きかけるカリキュラムを検討中です。以上、この大館でさえ相当数の子供たちが、ネットゲーム依存により心身ともに健全に成長すべき時期にそれを失いかねない状態に陥っていることは深刻な社会問題であり、社会全体が総力を挙

げて取り組むべき喫緊かつ重大な課題であると受け止めておりますので、今後とも防止対策の推進に努めてまいります。以上でございます。

○1番（柳館 晃君） 議長、1番。

○議長（藤原 明君） 1番。

○1番（柳館 晃君） 御答弁ありがとうございました。何点か再質問いたします。まず、東大館駅の問題であります。先ほど言い忘れましたが、地域がやはりこの駅を残そうということで、地元の会社、名前を言えばみんな分かるのですが、駅前にある石油・ガス・住宅設備販売会社が、自分の会社の3階の会議室を開放してくれています。開放するに当たり、壁紙も全部張り替え、椅子や長テーブルも買い足して、これから寒い冬を迎える駅待ちの高校生に開放するという取組も非常にありがたいことであるとともに、やはり地元のそういった声を酌んでやってくれているのかなと思います。そういったこともありますので、ぜひ東大館駅の駅舎保存について考えていただきたいと思っています。

それから不登校の問題であります。実は私も中学時代、不登校と言えば非常にかっこいいのですが、サボりにサボっていました。中学2年生のとき、当時は相染町でしたので自転車通学をしておりましたが、友達のうちに遊びに行き、常盤木町の通り沿いで自転車を止めて何時間か友達のうちに滞在して、夕方帰ろうと思ったら自転車が盗まれてしまったのです。当然施錠もしていないお前が悪いと、おやじにこっぴどく怒られまして、せっかく買ってやったのにこんな管理をするのだったらもうお前は歩いて行けと、それから歩いて行かざるを得なくなりました。自転車で行けば15分ぐらいで一中まで行くことができますのですが、歩けば35分、40分かかるわけです。自転車で行ってもぎりぎりの状態の中学生が、歩いて行けば当然遅刻をするわけで、当時は遅刻すると罰として20分くらい、1時間目が始まるまで入り口に正座をさせられました。それがとても嫌で、間に合わなくなると回れ右してうちに帰り、おやじ、おふくろには腹が痛いから帰ってきたと言い、1時間目、2時間目が終わったあたりにしれっと行っていました。どうしたのだというので、眼帯をかけていく、次の日は手に包帯をしていく、足に包帯をしていく。先生はそんなのは簡単に分かるわけで、今日はどこが悪いんだお前、足か、手か全部ばれて、とても恥ずかしくて行けなくなりました。今の心の問題の不登校とは違っただけのサボりで、ほとんど行かなくなってしまうという思い出があります。3年生になって受験のときも、テストの日と模試の日しか行かないというような体験をしたので、今の学校に行けない人たちの気持ちはちょっと分かるような気がします。ちょっとしたきっかけで、そういったことが起こるのです。私の場合は、高校は歩いて5分のところに行ったので、高校生になってからはそんなに遅刻をすることもなくなったのですが、中学生のときは、今考えれば笑ってしまうようなことで学校に行かなくなり、本当に損をしたと思っています。そのときは、ゆっくり行ってみんなに笑われようが怒られようが、楽をしたほうが良いと思っていたのですが、今考えると、その分友達との語らいとかを体験するチャンスが少なくなっ

まったということを思い出して、やはり不登校はよくないと思っております。ゲーム依存が原因ということではありますが、それ以外にもちょっとしたことで——今の子供は私のときと違ってもっと繊細になっていますので、そういった部分も、ふるさとキャリア教育を実践している大館ですので、何とか独自の指導法、対応策を考えていただきたいと思えます。ネットゲーム依存は社会問題であります、前にも申し上げましたが、くれぐれも条例化はしていただきたいと思っております。以上であります。

○市長（福原淳嗣君） 議長。

○議長（藤原 明君） 市長。

○市長（福原淳嗣君） ただ今の柳館晃議員の再質問にお答えいたします。柳館議員御紹介のとおり、地元の民間さんも同じ方向で頑張ってくれているというのは、何よりもうれしいことだと思っております。東大館駅の隣に大館総鎮守である大館神明社があるということが、地域としてあの場所がいかに歴史的な役割を果たしてきたかという証左だと思っております。歴史まちづくり法の認定に当たっては、桂城公園や大館駅のエリアでしたけれども、令和の時代の、さらに深めていく歴史まちづくりには、東大館駅の物語は、花輪線が持っている物語も含めて非常に重要だと認識しておりますので、官民連携で盛り上げていけるように取り組んでいきたいと考えております。

○教育長（高橋善之君） 議長。

○議長（藤原 明君） 教育長。

○教育長（高橋善之君） 柳館議員の再質問についてですが、まず、正座をさせるのは体罰でありますので、大変申し訳なかったと思えます。今はそういう指導はしておりません。もちろん、ネットゲーム依存の関係で不登校になっている児童・生徒と、いろんな心理的な要因で不登校になっている児童・生徒もございまして、それについての対応は、従来どおり適応指導教室があり、各学校の極めて丁寧な対応、相談活動の中で、復帰している児童・生徒も結構ございます。そういう形を進めてまいりたいと思えますし、一番大切なのは、やはり中学校を卒業する時点でリスタートができる体制を構築することです。それは中学校もそうであるし、大変お世話になっているのが鳳鳴高校の定時制過程です。その校長、教頭、先生たちとよくお話をしますが、小・中学校時代に不登校でふるさとキャリア教育を受けることができなかった子供たちのために、高校でふるさと教育をやってくれているようで、すごくありがたいと思っております。とにかく要因と言っても、今申し上げたとおりの従来の要因と、ネットゲームがございまして、それぞれ適切な対応をして一人でも不登校に陥る子が少なくなるように努めてまいります。以上です。

○1番（柳館 晃君） 議長、1番。

○議長（藤原 明君） 1番。

○1番（柳館 晃君） どうもありがとうございました。そろそろ田村劇場の開演時間が迫っ

てきておりますので、前座はこの辺で終わりたいと思います。

○議長（藤原 明君） 次に、田村儀光君の一般質問を許します。

〔14番 田村儀光君 登壇〕（拍手）

○14番（田村儀光君） 活性大館の田村儀光です。柳館議員には気を遣ってもらい、ありがとうございます。御協力ありがとうございました。同僚議員紹介のとおり、今日は田代地区の行政協力員の役員の方々が来ております。田代出身の3人の議員はいつもお世話になり、叱咤激励され毎回この議会に臨んでいるわけです。どうも御苦労さまでした。今後ともよろしく願います。議長からは必ず午前中に終われということですので、いつものように40分は使えず半分ぐらいになると思いますけれども、早速通告に従って質問に入りたいと思います。

最初に、**2期目の総括と今後について**であります。実は私が通告したとき、一日の新聞に3選出馬迫ると大きい見出しでついていました。市長に先手を取られて、昨日の新聞にもう出馬表明がついて、あれっと思ったのですけれども、出る以上は当選してぜひ頑張ってもらいたいし、そういう意味で今日は質問させていただきたいと思います。2期目の総括と今後について、3期目はジャンプの年とありますけれども、今まで1期目、2期目は三段跳びで言うところのホップ、ステップで、3期目こそジャンプで着地、あなたが今までいろいろ種をまいてきたものが、本当に花開いて実になる年だと思っております。そういう意味で、ぜひ3期目は頑張ってもらいたいと思っております。私が福原市長と会ってから、本当に時がたつのは早いもので8年弱になります。言葉は悪いのですけれども、この若者は何をやるのだ、大館を変えようと言って立ったけれどもどういう人だか分からないし——今でもよく分からないのですけれども——当時、市長と2期市議会議員と一緒にやった同僚議員に、福原市長はどういう人だと聞いたら「まず俺たちと考えていることが違う」「本当の政治家だ。政治をやるために生まれてきた人だから心配しないで応援してくれ」ということをよく言われていました。そういう意味で1期目は様子を見てきたし、確かに本当にいろんな種をまいて、1期目のうちに花が咲いて実がついたものもあります。ここで具体的に言うのは数があり過ぎてあれなのですけれども、秋田県で最初の認定を受けたとか、東北で何番目とか、そういう事業ばかりを持ってきて、本当にこの人はやれる人だと思って見てきました。ただ、やっていることはすごいけれども市民に伝わらないから、そこを何とか分かりやすい政治をやってくれということは、しょっちゅう言ってきました。私も、いつも話を聞いていても横文字が多くて、行政の言葉がよく分からないものがあります。2年目には、新大館市総合計画もつくったのですけれども、匠と歴史を伝承し、誇りと宝を力に変えていく未来創造都市と、分かるような分からないような目標でしたが、それもだんだん分かってきました。今まで首長をいろいろ見てきましたけれども、本当に実行力はあるし、すごい人だと思って私はさんざん褒めてきました。ただ、あまり東京とか外国とかに行くもので、市民からは何をやっているのだという声もあったのですけれども、それが今になって

本当に実がついているなと思っています。それを言えるのが、この間行った第3回秋田広域観光フォーラムです。国から、県から、全日空の社長さんとか、日本航空の社長さんとか、あのメンツを見たらと言ったら言葉は悪いのですけれども、すごい人が30人も40人も、わざわざ福原市長の呼びかけに応じて来たのです。2回目のときも私はいましたけれども、こういうものをやっているのだということを市民に知らせてくれということです。今回は杉の子でやったのですけれども、あれこそ文化会館の大ホールで、一般市民も、少なくとも行政協力員の方は招待して、市民も自由に参加くださるような形であると「福原市長はこういうことをやっているんだ、すごいな」ということが一目で分かるフォーラムであるなと思っています。来年は第4回をやるとしますので、ぜひ全市民に呼びかけて、文化会館が狭かったらドームでもいいですから、でかいところで全市民を集めて、私はこういうことをやっているのだということをやってもらいたいのです。市長になった8年前は、2040年問題、地方創生の話が始まったのですけれども、自治体の半分は2040年には消滅すると、それから各地方が持続可能なまちづくりを目がけて、福原市長もそれを目がけて今まで進んできたのです。その地方創生の取組の中で、ちょうど4年前の12月の議会で質問したときです。福原市長が考えるには、地方創生は地方の地域間の競争ではなくて、地域連携こそ地方創生の要だと、そして市長の十八番、ふるさと秋田、我が大館はその力があると、ものづくりでも物語づくりでもいろんな宝がいっぱい眠っているのだと、秋田県の先陣を切って扇の要になって頑張るといふ答弁をしています。うちら凡人から言えば、地方創生で大館がよくなればいい、住んでいる人が幸せになればいい、満足すればいいという考えですが、市長の頭はその先を行って、大館をよくするためには大館の持っている力を利用して地域連携し、その要となって大館を盛り上げていくのだと、私たち凡人の考えからすると大分先を行っている考えなのです。だから、そういう市長には3期目もぜひ頑張ってもらいたいし、それがさっき言いたかった、フォーラムというのがそこなのです。一般社団法人地域連携研究所というのが日本にあるそうです。その中で自治体会員となり、全国北海道から沖縄まで30何自治体が参加していますけれども、その会長に福原淳嗣さんが就いているのです。もう北東北の扇の要ではなくて、全国のそういう自治体の会長を務めるまでになってきました。これがいずれは市民のため、大館のためになるということを信じております。そういう意味で来年は観光フォーラムを大々的にやってもらいたいし、市民に広く呼びかけてもらいたいのです。こういうことを言うのは、あなたがやっていることは——昨日も、新聞を見た人から「来年、福原さんが出るって言っているけど、本当に何をやっているんだ」と言われました。私も説明に困るけれども「まずもう4年、5年待ってくれ。必ず大館は変わるから」と、ごまかしているわけではないけれども、そういう説明しかないのです。「私は福原に入れない」とはっきりと言われて、昨日はちょっとかちんときたのですけれども、そういう人もいるということを入れて3期目は臨んでももらいたいのです。ということで、2期目の総括と今後について自分自身の考え、また新たにここで出馬表明してもらいたいと思っています。

2番目の、令和5年度の予算編成についてであります。選挙ということで骨格予算となると、編成方針がさきの新聞に出されておりました。基本方針は、物価高騰などの情勢を踏まえた地域経済活性化の推進、今後の100年につなげる持続可能なまちづくりの推進、施策・事業の検証とスクラップ・アンド・ビルドの徹底による財源の確保。そういう編成方針がこの間の新聞についていました。これを見ても市民は、何をやるのだろうかと思うから、今その中身を具体的に、重要施策はこれだということを挙げてもらえればと思います。この中で、財源不足の話もありますけれども、それはふるさと納税のところで行います。それで来年は、第2次新大館市総合計画も8年間の最終年度なのです。だからこそ、今までやり残した、継続している事業とかもあると思いますので、それを具体的に市民に分かりやすく、重要政策は何か、これだけは予算に盛り込むのだということがあったら、ぜひ盛り込んでもらいたいです。そして2番目のイベントの補助金の見直しについては、これは小さいことなのですが前にも言っております。私は田代のことしか分からないのですが、たけのこまつりやふるさとまつり、五色湖まつりに毎年250万円の予算を頂いております。このコロナ禍で3年連続中止です。その予算がどうなるのかというと、感染症対策の基金に組み入れられて、他のものには何も使われないのです。前にもこれでは駄目だと言ったのです。それで、けんけんがくがく話をしたら、補助金を受ける団体の一つに明確にしてくれればという当局の意見も頂いております。田代にはまちづくり協議会がありますので、私の考えですけれども、今度からはできればそっちのほうで一任して補助金を受けて、来年はイベントができると思いますけれども、もしできなくなった場合でも、仮のイベントみたいな小さいイベントでもやったら、それが有効に活用できるような方向にもって行ってもらいたいです。これは去年も質問していますから、その補助金の見直しについても来年は考えておいてもらいたいです。それから来年は、市長の大好きな秋田犬のハチ公生誕100年のプロジェクトがあります。ハチ公ガールズの1期生で、今は東京のほうで歌手をやって頑張っている、ミスワールドの日本代表になった大館出身の女の子がいるのです。向こうでは結構人気が出ているようですので、できればドームがいいと思いますが、そういう人をぜひイベントに呼んで、ハチ公生誕100年を盛り上げていただきたいと、それも予算で考えていただきたいと思います。

それから、ふるさと納税についてです。ふるさと納税については9月にも質問していますが、日景議員が8年前から質問をして——調べたら4回質問していました——それで、目標を10億円までもって行って、今の実績では目標の10億円止まりです。前回も日景議員に、高止まりになっている理由とかを聞かれました。また、今日は同僚議員の斉藤さんからも、いろいろやり方とかの話がありました。調べてみたら、平成20年にこの制度ができて、私は本当に勉強不足で、9月に言ったとおり、北海道へ日景委員長に連れられて視察に行って、初めて目が覚めた制度なのですけれども、ふるさと納税というこれだけいい自主財源はないのです。それが大館の実績を見ると、平成20年度から始まって今年は15年目なのですけれども、平成20年

度から26年度の小畑市政時代は2億円で、最初の4年間はほとんど手当てしていません。平成27年度に福原市政になってから、日景議員にお尻を叩かれたかどうか知りませんが、7年間で47億幾らです。これはすごいです。これは自由に使える縛りのない、大館市に対するみんなのありがたい応援寄附金なのです。全国で一番は、北海道の2万何人しかいないところが150億円もやっているのです。そういうところに行ったら、考えただけでも羨ましいのです。この物価高——灯油高、原油高、電気高、ふるさと納税を150億円も集めているその町は、多分、相当町民に還元して、みんな笑って、市長が言う「いつも笑顔で、人の悪口を言わない、一緒に遊ぼう」の生活をしているのではないかと、本当に羨ましくなってきました。この制度は今15年目なのですけれども、はっきり言っていつ見直しされるか分らないです。だからこそもっと——せっかく福原市長になってから47億円です。逆に言うと、これがなかったら福原市政の財源はどうであったかと思えます。同僚議員の菅さんがいつも財政で心配していますけれども、この財源がなかったら、本当にもっと菅さんに怒られていたのではないと思うくらいです。使い道も見てみました。本当に何にでも使えますから、これだけありがたいふるさと納税はないです。日景議員には3月の議会で、日本一を目指して頑張れと言われましたけれども、9月、市長の答弁は、大館にはポテンシャルが70億円はある、70億円稼ぎますと力強く言っていました。今は10億円止まりですから、いきなり70億円はいかないと思えますけれども、このありがたいふるさと納税応援寄附金を少しでも増やせるように、ぜひ努力してもらいたいです。今まで福原市長がやってきたことを褒めてきたのですけれども、それにプラスしてこれをやったら大館は万々歳です。市民に大手を振って福原市長の宣伝ができる内容です。まだまだ私も勉強しますが、9月の答弁では全庁を挙げて取り組む、職員もその気持ちでやるという話をしていました。本当にありがたい財源で、縛りのかかかっていない補助金ですので、そういう意味でぜひ積極的な取組と有効活用をお願いしたいと思います。

それから、**インランドデポ**についてです。今、市民の方もよく聞くとおもいますが、このインランドデポの取組、進捗状況はどうなっているのかについてです。去年の12月にちょうど推進協議会が発会したそうですけれども、その後はどうなっているのか、いつ実現するのかです。これもまた地域連携のたまもので、福原市長の狙いどおりの事業ですが、勉強すれば、本当は国でやらないといけないような事業なのです。それを福原さんが国に働きかけて、大館へこの事業を持ってこようとしているのです。大館で言えば、高橋教育長が大館版ふるさとキャリア教育で一生懸命頑張ってきて、それがモデルとなって文部科学省を動かし、それで教育委員会に毎年何十人、何百人も視察に来るような大館版ふるさとキャリア教育を確立しました。それと同じように、福原さんが今やっているインランドデポは、福原さんの考えで国を動かしてやる大事業なのです。詳しい内容も福原市長の答弁にあると思えますけれども、その進捗状況はどうなっているのか、何年度にやるのか、その辺が分かっていたら答えてもらいたいと思っています。

最後に、**病院事業**についてであります。一つ目は、コロナの現状と対応についてです。前の議員にも言っていましたけれども、今第8波に入ったと言われております。問題なのはインフルエンザです。第8波と、去年おとしはほとんど聞かなかったインフルエンザが同時流行するのではないかと、医療崩壊も心配するような状態になっております。あと、検査キットはあるのかとか、薬不足だというニュースもありますので、市民がどういう対応をしていけばいいのか、それから診療のお金はどうなるのか、インフルエンザの検査もするとインフルエンザは有料だと言うし、国の対応があるのか、援助はあるのか、そういうことについて何とか答弁していただきたいと思います。病院事業管理者はコロナ禍で本当に忙しいところでありますけれども、おいでいただきましてすみません。最後に、扇田病院についてであります。扇田病院を守る会が、今日の新聞にもついていました。扇田病院の無床診療所化に反対する集会なら反対集会と書けばいいのですけれども、12月17日に会があると書いています。これに行ったらいいのか、どうしたらいいのか……。前に北鹿新聞にでかい記事がついたとき、議員にアンケート調査をして賛成か反対か回答を求めたときの結果がついていました。そして、10月30日も会をやるので奮って参加くださいということで、実はこのとき私は行ったのです。このときのアンケートの回答にも、私は去年から担当委員会になって扇田病院についても一生懸命審議しているので、どうもこの守る会の中身を見ると内容を分からないで署名している人がいるのではないかとということで、私のアンケートの回答を2万人の人に説明する場を与えてくださいと書いてやりました。それで新聞記事を見たものですから、30日に中央公民館に行きました。会長が挨拶をして、麓事務局長が挨拶をして、それから議員たちの挨拶というので、そのときに手を挙げて「ぜひ発言させてください」と言ったら、麓さんが走ってきて、すぐに乳井会長の息子さんと思われる人をよこして「今日の予定にないので外に出てください」と言われました。「何の会なのだ。担当委員会として内容を話したいから来たのだ。署名した人たちが誤解すれば困るから、ちゃんと審議内容を説明しに来たのだ」と言ったのですが「予定にないので外に出てください」と言われ、憤慨して帰ってきたのです。だから、この目的は何なのだということです。今日もまた、12月市議会報告と市民と語る会と新聞に出ていました。これに行ってもまた外に出されるのなら行かないほうがいいと思うけれども、これでは集まった人がかわいそうだと思います。ただ病院をなくするな、守れ、それだけなのではないでしょうか。(資料①を議場のモニターに表示)今、委員会で審議しているのはこれなのです。さっきのことは市長に感想を求めたいと思っていますけれども、今のスケジュール案は、地域医療を考えろと国から新しいガイドラインが来て、令和6年3月までに返答をすることになっています。いろんな会議が毎月のようにありますけれども、これも今のコロナ禍でお医者さんが忙しく、委員会に報告したとおりにいっていません。前に無床診療所化案を出したのは、皆さんも知ってのとおり、令和元年に扇田病院が経営再建を考えろという全国の424病院に指定されて、それで2年の秋までに返答しろということでありました。ところが、2年に入ってコロナが蔓延してしまい、国の

ほうでも伸ばし伸ばしにして、いつまで返答とまだ来ていないのです。あの無床診療所化案は、去年の6月に議会に報告され審議が始まり、それに対して守る会が騒いだのですけれども、今年新しいガイドラインが来て9月の議会で提案されたので、その件はもう、前の案は棚上げというか、そっちはまた別の

スケジュール(案)

	R4(2022)												R5(2023)											
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
◎ 扇田病院に関する検討	経営強化プランに反映させることを目標とする																							
【病院事業】																								
○ 病院事業経営戦略会議	○			○																				
○ 市関係部署との協議		○			○																			
◇ 大館市議会(経過報告)																								
◇ 在宅医療・介護連携推進協議会																								
◇ 大館・鹿角地域医療構想調整会議																								
◎ 公立病院経営強化プランの策定(総合・扇田)	→																							
・データ、経営状態分析																								
・総務省アドバイザーによる助言																								
・院内各部門との協議																								
・市関係部署との協議																								
・プラン策定																								
・市及び市議会へ報告																								
・プラン確定・総務省様式に調製																								

資料①

回答になるのですが、そっちの無床診療所化案、今扇田病院で騒いでいる案は、白紙とは言わないのですが、いつまで出せと国からまだ来ていないのです。これは5年に1回、公立病院の経営安定化ついて計画を組んで出せというものです。今この中で、扇田病院をどうするのかということをやっているところです。もう一つ言いたいのは、(資料②を議場のモニターに表示)これは病院の資金不足比率です。この間の中央公民館でも会長が、病院事業は資金不足比率が1.4だから健全経営だと監査報告があったという話でありました。

この中身を見ると、大館市には二つの病院があるから、総合病院と扇田病院の二つを足した連結決算で資金不足比率が1.4なのです。委員会に出される資料は、総合病院は幾ら、扇田病院は幾らとなるのです。これは平成27年から

病院事業の資金不足比率の推移

区分		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
総合病院	資金の不足額(A)	592,948	457,994	158,222	175,888	214,561	317,057	169,218
	事業の規模(B)	7,937,060	8,090,135	8,176,257	8,687,569	9,065,082	8,884,116	9,074,338
	資金不足比率(A)/(B)×100%	▲7.4	▲5.6	▲1.9	▲2.0	▲2.3	▲3.5	▲1.8
扇田病院	資金の不足額(A)	▲167,517	▲204,225	▲279,713	▲261,141	▲313,373	▲280,352	▲319,148
	事業の規模(B)	1,188,683	1,152,959	1,099,756	1,177,534	1,126,129	1,023,683	1,050,812
	資金不足比率(A)/(B)×100%	14.0	17.7	25.4	22.1	27.8	27.3	30.3
合計	資金の不足額(A)	425,431	253,769	▲121,491	▲85,253	▲98,812	36,705	▲149,930
	事業の規模(B)	9,125,743	9,243,094	9,276,013	9,865,103	10,191,211	9,907,799	10,125,150
	資金不足比率(A)/(B)×100%	▲4.6	▲2.7	1.3	0.8	0.9	▲0.3	1.4

10%以上：起債に県知事の許可が必要であり、「資金不足等解消計画」の策定が必要
20%以上：公営企業の経営健全化のための計画(経営健全化計画)を策定し、毎年度議会の議決と国への報告が必要

資料②

のを私が取り寄せて出したものですがけれども、赤い字で書いてあるのが扇田病院で、去年は資金不足比率が30.3です。その下にまた赤い字で、20%以上になると公営企業の経営健全の計画を策定し議会に報告して、国に報告しなければいけないと書いてあるのです。ただ、大館は連結決算だから、総合病院と扇田病院を合わせれば大丈夫だと、それだけで通ってきたのです。この責任の一環は議員にもあります。私がこういう資料を取ったところ、合併してすぐの20年からの資料は、扇田病院だけ見ると資金不足比率が全部10%以上です。赤い字の上にある、10%以上になると知事に報告しなければならないとなるのです。ただそれも、連結決算の隠れみので、やらないできたのです。だから、議員にも責任があるというのは、所管の委員であればこの数字を常に出されているわけですから、合わせればいけれども扇田病院だけを見ると知事にも報告しないとといけない、29年からは国にも報告しないとといけないことになっている、

このままにしておかないだろうと、今まで一度も経営改善という計画が出されたこともないし、これはもっと前から、平成20年から突っ込まなければいけなかったのです。そういう点では、今日は休んでいますけれども阿部文男議員が前に言った、合併当時から扇田病院の問題をいろいろ考えてこなかったと言ったのが正論だと思います。それを見過ごしてきた議員である私たちにも責任があると、本当にその点は守る会にも謝りたいと思っています。そういうことを説明しようと思って中央公民館に行ったら、門前払いを食らったのです。「何の会だ、この会は」としゃべって帰ってきたのです。17日もまた市議会報告と市民と語る会に行ってもいいものなのか、どうなのか、行ったらあなたは予定にありませんと戻されれば何にもならないので、行かないほうがいいと思っていますが、そういうことでございます。扇田病院で私が質問したいところは、委員として去年の6月から今まで携わってきましたけれども、市民には分かりやすく、扇田病院は3年なら3年で廃院する、5年なら5年で廃院するとしたほうが分かりやすいし、市民が対応しやすいのではないかと思います。診療所もいらないと、前に日景議員も言っていましたけれども——日景議員は頭がいいので案には従いますと言っていましたけれども。私個人としては、診療所もいらないとと思っています。田代も診療所がなくなったので比内もいられないというわけではないですけれども、この数字を見て、委員会で審議すればするほど、これはいられないと思います。診療所を造るとかではなくて、かえって3年後には扇田病院を廃院するとしたほうが、市民が分かりやすく対応できるのではないかと思います。扇田病院については、経営強化プランもまだまだ再来年の3月までの予定です。今はコロナ禍で、予定された会議も全然やっていないですからこれからだと思いますけれども、私としてはできるだけ早くやってもらいたいです。この数字のほかに劣化度調査の数字もありますし、扇田病院は1～2年でもうこれが壊れれば来年は使えないという器具がいっぱいありました。視察にも行ってきました。来年というよりも、本当に明日使えなくなる機器が出てくるかもしれません。それを修復するとすれば11億幾らかかるのだということも委員会に上がっております。そういう意味で、今はっきりと結論を出すのなら、扇田病院は3年後には廃院しますという——これは私の考えですけれども、市長、病院事業管理者の考えを聞かせてもらえればと思います。

この場での質問は以上で終わります。(拍手)

〔14番 田村儀光君 質問席へ〕

〔市長 福原淳嗣君 登壇〕

○市長（福原淳嗣君） ただいまの田村儀光議員の御質問にお答えいたします。

まず大きい項目の1点目であります。都度、総括ということで、市長の見解はどうかのだということ、田村議員にはよく聞いていただけます。感謝を申し上げたいと思います。この7年8カ月の間で、2年半前に緊急事態宣言が発出されて、政治をめぐる状況が一変したということに政治家として気づきがないのであれば、私は政治家を辞めるべきだと考えていたことをまず申し上げたいと思います。そうした中、これから求められる政治の形や、未来をつくるべ

く政治がつくり出さなくてはいけない政策のありようを、ずっと模索してきた2年半でありました。結論を申し上げるならば、私が掲げた政策は、現状をよりよく変えていくための一つの方策であり、その方向性は間違いではなかったと思います。ただし、今まで以上に世界を見て、いわゆる日本ルール、日本の決まりだけで議論をしていくとあつという間に取り残される、日本の状況はそういう中にあるという危機感を、私は今現在持っています。そしてそれは、10月に知事を含め300人の関係者で参りましたが、フランスに渡って実感いたしました。私たちの思考のパターンや議論の持っていく方は、完全に世界から取り残されています。そういうことをしっかりと押さえた上で、この町を消滅可能性都市にしてしまわないために何ができるのかということ、今でも常に考えているということをぜひ御理解いただきたいと思います。その中で、消滅可能性都市の話がありました。総務大臣もされた元岩手県知事の増田寛也さんが言った消滅可能性都市です。一つ面白い話をしたいと思います。フランスから戻ってきて次の日、私は畠山部長と一緒にプラチナ構想ネットワークのプレゼンに行きました。林業政策の先進性を認めてくれたプラチナ構想ネットワークです。別の言い方をすると、東京大学と三菱総合研究所の人たちが評価をしてくれた前で、大館は林政をどう考えているのだとプレゼンしました。そこで大館を優秀賞に審査してくれたのは、その増田先生なのです。先生が消滅可能性都市と言ったときに、まさか消滅可能性都市である大館から、林政に関してこんな成長戦略が語られるということは想定していなかったと思います。あれはあくまでも、あの時点で何もしなければなくなってしまうというものです。でもそうではなくて、私たちは未来を構想し、あるべき未来に導くために知恵を出せます。そして、政治を介して政策をつくることのできるのです。そういう町をつくっていくことが、何よりも一番大切だと思いました。そして、この7年8カ月の間一番留意していたのは、私がいずれ市長でなくなっても、自分たちで考えていける職員をどれくらい多く育成することができるかでありました。これは先日の話ですが、私は内閣府が主催する輝く女性の活躍を加速する男性リーダーの会に入っています。定期的に内閣府の講堂で会議があるのです。私と与えられたテーブルは、隣が従業員18万人のNTTの澤田会長さん、向かいが従業員1万8,000人の清水建設さん、その隣が従業員1,800人の三洋化成工業の安藤会長さんでした。この3人と話をしたときに「福原さんはこのパンデミックで何をされたのですか」と聞かれ、私は「職員の皆さんには、大館市役所は町の未来をつくる頭脳集団であるべきだと話している。そのために、総務部は未来を構想し政策をデザインする部、市民部は暮らしに便利を届ける部、福祉部は暮らしに安心を届ける部、産業部は町の元気をつくる部、観光交流スポーツ部は町と暮らしにわくわくとどきどきを届ける部、そして町を具体的に作るのは建設部だと再定義している。それを今、部長、課長で話をしている」と言ったら、この3人の会長は、そういうことをする自治体とぜひ職員・社員の交流をしたいと言うのです。そして、そのとき言われたのです。「でも福原さん、大館市役所の職員の評価は何ですか」と言うのです。時間なのです。その3社は時間では見ないそうです。その人が何をできるかを

しっかり見るそうです。いわゆるジョブ型の議論です。いずれ職員の皆さんも、人生100年の時代、副業も可になります。第二のステージのことを考えると、自分たちは何ができるのか、しっかりとキャリアパスをつくってあげられる組織に変えていかないと、若い優秀な人間は絶対に市役所に入ってくないのです。ここが今、私たちが持っている最大の課題であります。ですので、あらゆる施策を持ってきましたけれども、来年の厳しい戦いの後に、もし市民の皆さんの負託を頂いたときには、これまでまいた種から芽が出て花を咲かせることと併せて、その次の時代の未来をつくる頭脳集団としての市役所のありようも、職員と一緒にしっかりと構想し設計していくことが一番重要だと考えていることをぜひ御理解いただきたいと思います。そして改めて言いますが、就任したときから、ふるさと秋田のために我が大館ができることを念頭に市政運営に当たってきました。当時から私は、ふるさと秋田のために、大館は北を目指すと言いました。みんなは「何を言っているのだろう」でした。でも多分今は、観光交流スポーツ部長は、当時私が何を意図していたのか痛いほど分かると思います。そして、観光が今、何をしなければならないのかも、経験もノウハウもありますので、そこは任せたいと思います。一つ一つ首長が指示を出す組織はよくないです。職員が育たないです。方向性は示しますが、考えるのは幹部の仕事だと思います。そうした中で、より自主的に、他人ごとではなくて私ごととして町の未来を考えていってもらえる職員を、これからもきちんと育成していきたいと考えております。そしてこの中で特に、外貨を稼ぐものづくり、そしてお客様を呼ぶ物語づくりに関しては、国・県・県内市町村だけではなく、渋谷・函館・弘前など、政策の方向性を共有する自治体との連携は格段に深まったと思っています。そして2期目からは、田村議員の御指導もあり、内に優しく外に強いということを標榜してきました。これを具体的にお話申し上げたいと思います。まず、暮らしをつなげて内に優しいまちづくりにおいては、豪雨災害への迅速な対応と被災者支援、感染症関連では日本で最も早く、しかも大規模なワクチン接種事業の実施等をし、27億3,000万円、47事業をやっています。それから経済浮揚等対策の実施、今行われている大館版m o b iプロジェクトの実証運行、秋田犬の里のオープン、学びを深めたいという意欲に応えるリカレント教育——これは昨今こそ言われていますが、大館は実は4年前から取り組んできました。障害を持つ方々が気軽に集まることができるサロンのオープン、それから大館版ワンストップ子育て支援窓口さんまあるの設立を経て、つどいの広場ひよこや子どもの遊び場も今月の22日にオープンします。着実に前進してきたと思います。一方、町をつなげることで外に強いまちづくりでは、北東北の陸援隊を目指す理念のもと、弘前地区消防事務組合及び五所川原地区消防事務組合との消防相互応援協定の締結、広域観光フォーラムの開催、北東北の交通の要衝である本市の地理的な利点を生かすための大館駅インランドデポ構想や野遊びSDGs事業により、人の流れと物の流れは確実に大館に集まろうとしてきています。そして、全国で15の自治体しか認定されていない、もちろん秋田県内初の先導的共生社会ホストタウンとして、年齢・性別・障害の有無にかかわらず誰もが住みやすい社会を目指すとも

に、これも県内初のゼロカーボンシティ宣言により、二酸化炭素排出を実質ゼロにする取組を強化しています。この取組は特に今、八峰町から由利本荘市まで日本初の商業ベースの洋上風力発電事業が進んでいますが、そこに参画している企業さんが、大館の環境政策を実際に学びに来たいということで、たくさんのオファーが来ています。こういうことを通じて、洋上風力発電事業にも地元の政情が関わっている素地を、これからもつくっていきたいと思っています。さらには、健康寿命の延伸——これは、健康経営の観点からも非常に重要です。スポーツコミッション大館を設立することを通じて、市民の皆様の健康維持や生きがいをいづくりに取り組んでいます。そして今後、我が国においては、ビッグデータやAIを活用した産業・経済等の各分野で技術革新が、目まぐるしく進んでいくと考えています。特に、地域社会の在り方、暮らし、多くの価値観が根本的変化、いわゆるパラダイムシフトを起こしていくことは確実だと考えています。田村議員におかれましては、物すごくすてきにタブレットをお使いになっていますが、実はそれは最終形態と言われています。今朝の経営戦略会議で話しましたが、今私たちが使っている機器は、あくまでも計算技術の延長線上にあるものです。今言われているのは、計算ではなくてコミュニケーションです。伝達することを想定したシステムに変わろうとしています。ですので、いずれ3階にあるサーバーもいらなくなります。私たちはあくまでも計算をベースとしたツールでインターネット機器、IT機器の恩恵を受けているわけですが、それが確実に変わっていくということになります。すると、今私はフランス語を勉強していますが、瞬時に翻訳されますのでフランス語を勉強する必要はありません。そうなってくると、なおのこと日本の決まりだけで決めていくということは通用なくなります。そういう世界に私たちは入っていています。こうした大変革の時代にあって、重要なのはウィズコロナの大館づくり、感染症と一緒に暮らしていくまちづくりです。さらには北東北の新しい時代を切り開いていく施策に、大館が率先垂範して取り組む必要があると思っています。次の世代の大館びとに、可能性に満ちあふれたこのふるさと大館をしっかりと引き継ぐために、改めてここで宣言させていただきます。来春の市長選に立候補したいと考えておりますので、田村議員におかれましては、今後とも御指導御鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

大きい項目の2点目ではありますが、毎年度、まずは予算編成方針を定めます。この編成方針に従って今、各部、各課において予算を編成していただいております。議員御紹介のとおり、今回は選挙を見据えておりますので、骨格予算での編成ではありますが、まずは先ほどの柳館議員御指摘のとおり、感染症の拡大と併せて、2月24日に始まってしまったウクライナ戦争による物価高騰などの情勢を的確に踏まえた地域経済活性化の推進と、持続可能なまちづくりの推進、そして今まで進めてきた政策に関してはきちんと見直して、いらぬものはスクラップ、必要なものは最初からつくっていくビルドの徹底による財源の確保、この三つを掲げ、現在各部で対応しております。そして全ての部署を対象に、令和5年度後半の予算編成につながる政策協議を再開しておりますが、先ほど御説明申し上げましたとおり、町の未来をつくる頭脳集

団としての各部の使命を、部長はちゃんと考えてほしいのです。その下で、それぞれの部・課が、何ができるのかをきちんと文書化してほしいと徹底しています。そして、このやり取りが、計算中心の今のIT機器ではなくて、コミュニケーション中心のツールになってきたときの私たちの武器になります。私たちが使っているものは全部英語の発想です。その人たちがどういう思考の段取りで考えて、答えていくかについていけないと、私たちはずっと取り残されたままです。そういうことは絶対にさせてはいけないと考えております。そういうこともあり、各部署は今積極的に予算編成に向かっていて、いずれ近いうちに、来年2月には各会派の先生方に予算の内示をしたいと思っております。そうした中、一つ注目しなければならないのは令和5年度の国の予算の概算要求です。コロナ禍で、特に地方においては、感染症への対応は続くけれども今まで以上にデジタル変革に対応してほしい、脱炭素社会の実現に向けた取組を推進してほしい、活力ある地域づくりをしてほしい、防災・減災、国土強靱化をさらに進めてほしいといった流れがあります。こうした中において、特に田中副議長には、8月の豪雨の際に積極的な提案をしていただいておりますが、河川法の見直しについても、大館市は一自治体の枠にとどまることなく、積極的に霞が関や永田町に行って提案をしてきたいと考えております。そして、こういった施策を実現するためにも、安定的な税財政基盤の確保が重要であります。地方の財政運営に必要な一般財源の総額が、前年度の水準を下回らないように、実質的に同水準を確保する考えを示しています。そして財政状況の見える化、いわゆる財務諸表4表だけではなく——多分、ほかの自治体は出していないと思います。資金構造適正度をきちんと出しているのは大館市ぐらいだと思います——公立病院経営強化プランの推進等による公営企業の経営改革など、地方の財政マネジメント強化も併せて掲げています。今後、今まで以上に国の動向に注視すると同時に、市議会において御指摘いただいた事項や市民の皆様からの御要望・お声に留意した上で、まずは地域経済の好循環や市民の暮らしやすさを守ることを最優先とし、総合計画及び総合戦略に記載している全ての施策を捉えた予算編成を行っている最中でありませう。改めて、来年の2月に示させていただきますので、御理解いただきたいと思います。大きい項目の2点目の小項目2点目でございますが、議員御指摘のとおり、田代地区においては残念ですけれども、たけのこまつり、大鮎の里ふるさとまつり、五色湖まつり、全て中止となっております。しかしながら市としては、田代地域が持っている豊かな自然や歴史をしっかりと大館の宝にする、羅針盤にするために、田代地域まちづくり連絡協議会などと密に連携をしながら、地域イベントの開催にも関わってまいります。田代地域にある豊かな自然、食文化、舟運の歴史など、他に誇るべき様々な地域資源を、官民で磨き上げている最中です。地域を今まで以上に盛り上げるべく、積極的に取り組んでいくことをお約束申し上げます。

大きい項目の3点目であります。田村議員御紹介のとおり、平成27年に私が市長に就任してから、47億円余り頂いております。この寄附金を財源として、まずは福祉医療制度の拡充、出産祝い地域限定商品券贈呈事業といった子供の成長を支援する事業に充てているほか、高齢者

の生活支援や環境保全、観光振興等、幅広い事業に活用させていただいております。また、近年では年間の寄附者は5万人を超えています。この中には毎年御寄附いただくリピーターも確実に増えています。この制度は、ふるさと大館の魅力を全国に発信する道具としても非常に有効だと認識しています。先ほどお答えしましたけれども、3年ぶりに横浜市で開催された感謝イベントに職員が生産者の皆さんと実際に参加して、直接、御寄附いただいた方々に御礼と今後の変わらぬ御支援をお願いしてきました。こうした取組を通じて、まずは目標額の10億円達成を目指しています。さらなる寄附の増額に向けて、市内の返礼事業者で組織するふるさと納税事業者会及び大館商工会議所と、課題を共有しながら体制の見直しを進めているところであります。また、返礼品の安定的な供給体制を構築するためには、ノウハウを持つ企業との連携強化が重要だと考えています。また、返礼品需要の分析データや目標値を事業者等と生産段階から共有する必要があると、本市の持つふるさと納税のポテンシャルを最大限に引き出していきたいと考えています。先般、茨城県境町に行ってみました。人口2万5,000人でありながら、ふるさと納税48億円。将来は55億円、60億円になるそうです。そこではっきり言っていました。売り切れ状態をつくらないことが一番重要です。そして、100億円を超えると総務省にマークされます。100億円を超えてはいけません。そういうこともきちんと学んでまいりました。大館はまだまだ伸び代がございます。田村議員、ぜひ時間が合えば境町に行きたいと思えます。ちなみに、あそこは3万発の利根川大花火大会を推している、話をすると大曲の花火を非常に尊敬しているのです。それで、つなげてほしいと言うので、先日つなげてきました。大仙市の老松市長に、境町がラブコールを送っていると言ったら「いいよ、つながるよ」と二つ返事でした。そしたら境町の橋本町長は——若くてすごい方なのですが、関東大曲花火大会にするそうです。やはりすごいなと思いました。それぐらいの行動力と実行力があるからこんなに集まるのだなと思っていて、私も行ったときプレゼンにびっくりしました。アメリカの西海岸のアップルとかグーグルとかのCEOがやる黒い格好でスマートなのです。首長はそうではないといけないなと思っていました。いつもスーツ姿にこだわってはいけないなと思いました。引き続き、関係人口の拡大と産業の一層の振興、そして施策実現の貴重な財源となるふるさと納税の仕組みを全面的に活用していきたいと考えています。

大きい項目の4点目、大館駅インランドデポですが、正直に言います。これはリサイクルマインパーク秋田県北部エコタウン計画が実現されていなければ出なかった話です。鉱山がつくり出した海外から本市へ来る非鉄金属の原料を運び入れる鉱山物流、いわゆる静脈物流と、北東北で製造された製品や農産物を海外へ運び出す動脈物流を大館駅で結ぶという、日本初の物流システムを構築するものです。民間事業者による通関機能を備えた物流拠点であります。また、トラックから鉄道へと輸送手段の転換を進めるとともに、複数の荷主間でコンテナを融通し合い、効率的に貨物を運ぶコンテナ・ラウンド・ユースを進めることにより、輸送の効率化と省力化、環境負荷の低減を図ることが期待されています。あまり話題に出ないのですが、

2024年、あと2年しかないですが、トラックドライバーは12時間しか運転できません。しかも、6時間に1回は休憩しなくてはなりません。ということは、片道5時間です。片道5時間では仙台ぐらいまでしか運べないのです。こういう働き方改革の流れもあります。うちの港を使わないのかと、いろいろ言われているときもありました。でも今は逆に、県のトラック協会が、モーダルシフトに取り組まなければ私たちの業界は取り残されるのでこの協議会に入りますと声高に言ってくれています。こうした地道な努力が必要だと思っています。国においては、農林水産物の輸出を今の1兆円から5兆円にしたいとし、そして将来的に、今のウクライナ戦争を含めレアメタルが非常に高騰している中で、大館が取り入れているこでんからのレアメタルの回収率を倍にしたいとしています。そしてヨーロッパは、マネーロンダリングとって、鉱山の鉱石がマフィアとかのお金に流れていかないことをチェックすることも含めて、物のトレーサビリティ、きちんと追跡することを通じて、ヨーロッパで売っていいかということを決めますと言っています。物流の仕組みが大きく変わる中で、この大館駅インランドデポが果たすべき役割は大きいと思います。5月には、先進地である盛岡インランド・コンテナ・デポの視察を行い、7月には、先進企業から講師を招いてセミナーを開催したほか、港湾関係者や物流関係団体、荷主企業などに働きかけ、協議会の活動に対する理解を深めている最中です。49団体で始動しましたが、今は57団体まで増えました。現在、用地確保や許認可手続等の条件の整理や、物流の現状調査を実施しながら関係機関との調整を進めているところであります。今後、実証実験を年度内に実施できるように、今、調整中であります。実際に荷物を海上コンテナに積み込み、京浜港・大館間を運行するものであります。荷主企業2社にも参画いただきながらコンテナ・ラウンド・ユースの実証試験を行います。供用開始時期につきましては、令和7年度と定めてはいますが、今、急速に変わっている為替の状況を注視しなければならず、あくまでも予定ということにしています。社会情勢の変動をきちんと見極めた上で、まさに国策にかなう事業だということをきちんと政府に認めてもらうまで、しっかりと対応していきたいと考えています。

大項目の5点目につきましては、吉原病院事業管理者からお答え申し上げます。

以上であります。よろしく御理解を賜りますようお願い申し上げます。

○病院事業管理者（吉原秀一君） それでは、田村儀光議員の質問にお答えしたいと思います。まずは、現在のコロナの状況についてです。今、第8波の最中です。さらにピークは来ると思っています。昨日出た数字は、秋田県は850人くらいですけれども、実数はその倍以上あると思います。というのは、途中で全数把握をしなくなったので、隠れコロナがかなりいます。そのため、医療現場は今、非常に逼迫しています。昨日の病床稼働率は58%ですが、実際は95%以上です。この理由は、実はこの病床を設定したのは昨年末です。それで、今は何が一番制限しているかという、医療者がコロナにかかっているのです。その病棟を管理する看護師や医師がかなり不足しています。ですから、現実はまだ95%を超えている状態です。私は医師会の幹部

として、秋田県の最終的な患者調整をやっているのですけれども、昨日は受け入れる病院がゼロでした。じゃあどうしたかという、ある病院の外来に、朝まで何とかそこで耐えてくださいとしました。そういう状況が続いています。この状況は大館も例外ではありません。ただし、これまでも大館で病床をオーバーするような患者が出たときは、他の地域に紹介することなく、全て当院でオーバーベッドでも預かっています。やはり、地域の患者は地域で守るのが基本ですので、そのようにしていますけれども、予断を許さない状況が続いています。ただ、第7波よりもよかったのは、第7波で大分開業医の先生がお慣れになって、発熱患者をかなり診ていただけるようになりました。恐らく今は、市内で100人程度は十分診察できる能力があると思っています。日々、我々は開業医さんから、患者が余っていないか、休日夜間急患センターから余って救急に来る患者はいないかのモニタリングをしています。そのモニタリングをした上で、先日も市長と打合せをしたのですけれども、市の福祉担当者、大館市医師会と連携して、逼迫する状況が予想される場合は、2日以内に発熱外来を当院に設置して、別ルートで発熱患者を診るという体制を整えるように準備しています。このような予断を許さない状況ですけれども、少しいい点は、重症化が少なくなったことです。軽症化してきています。特に、若年者や壮年者でかかった人で、亡くなる人はほとんどいなくなりました。今は亡くなっている方が結構多いのですけれども、これは85歳以上や90歳以上の方が中心です。もともとこういう方は、風邪を引いても亡くなる可能性がある方で、そういう方が実際は亡くなっているという現状です。もう一つ、今、B.A.5の2価ワクチンがかなり浸透してきております。ですから、市民の方は積極的に受けていただければ、なおさら感染には強い状態が続くと思っております。ということで、非常に逼迫はしているのですけれども、何とか対策は取れている状態です。あとインフルエンザの件ですけれども、これも非常に危惧されており、南半球では同時流行して大変な混乱になったということです。実はその南半球の状況を推察すると、北半球ではもう11月の初めにかかる予想がついていたのですが、11月はほとんどかかっていないです。ということは、南半球とは少し違う様子を呈するのではないかとということです。このまま12月もかからなければ、インフルの影響はないかもしれません。ただし、あるつもりで、当院ではコロナ・インフル同時検査キットを1,000個以上そろえて体制は整えているのですけれども、あるいは無駄になるかもしれません。薬については、先日新薬が出まして、翌日には当院の薬局に常備しております。ですから今は3種類、パキロビッドとラゲブリオ、そして今出たゾコーバという経口の薬です。それでウイルスが30分の1になるらしいですから、体制は整えて、今、使おうと思って手ぐすねを引いているところです。これから第8波、決して予断は許しませんけれども、本市に限っては対策は十二分に取れていると考えております。続いて、扇田病院の問題です。昨年6月に戦略会議で診療所が適当であるとなりました。これの理由は、医療需要、人口、そして昨今、国から言われている持続可能であることです。持続可能であるということは、先ほど田村議員がおっしゃったように、10%の資金不足比率があればイエローカード、

20%でレッドカードということです。実は、このシミュレーションの過程で5年、10年すると、今は30%の資金不足比率が80~90%になるのです。一方で、5年後、10年後の市の財政は、人口減少に続いてどんどん縮小していきます。ですから、その割合はますます増えるということで、これでは持続可能ではないと、病院での提案はなされませんでした。ただし今は、いろんな方法ということで、例えば介護医療院ですとか、その他いろいろ検討している最中です。来年度いっぱいにつくる経営強化プランについては、既に外部の——この方についてはまだ公表しておりませんが、ある地域で地域医療を完成させて成功に導いた方に、当院に来ていただきました。それで経営状況を見ていただいて、御意見も頂いております。今後もその外部の方ともさらに議論しながら、またこれから何度か戦略会議を開いて、今後の行き先を決めていきたいと思っております。ですから、今、3年後に廃止するということは、ちょっとここでは言明できません。また、廃止、存続、あるいは形態の変化については、決定するのは議員の皆様であるかと認識しております。ということで、田村議員については、何とぞその辺のことを御理解いただけるよう、よろしくお願いいたします。以上です。

○議長（藤原 明君） この際、議事の都合により休憩いたします。

午後0時15分 休 憩

午後1時30分 再 開

○議長（藤原 明君） 休憩前に引き続き、会議を開きます。

花岡有一君の一般質問を許します。

〔12番 花岡有一君 登壇〕（拍手）

○12番（花岡有一君） 令和会の花岡有一です。通告に従いまして一般質問をさせていただきます。

最初に、マイナンバーカードの交付率と地方交付税やデジタル関連交付金の配分について伺います。地元紙によれば、大館市のマイナンバーカードの交付率が10月末現在で50.6%となりましたが、残念ながら全国平均の51.1%を下回っております。マイナンバーカードにつきましては、大館市の市民課が中心にとっても頑張っております。新型コロナウイルスワクチン接種会場に出張して、2日間で約1,000件の申請を受け付けました。その5月には伸び率が全国1位になったと報道されております。また、大型商業施設などでの臨時窓口の開設や企業、団体への訪問申請をしていますし、土曜、日曜日にも臨時窓口を開設したことがあります。私は何年も前にカードを作りましたので、9月議会中に市民課の窓口に行き、健康保険証としての登録と公金受け取り用の銀行口座を登録し、合わせて1万5,000ポイントを頂きました。私は会合や会議があるたびに、マイナンバーカードを作りましたかと問いかけ、マイナポイントがもらえるうちに作ってくださいと勧めております。市役所の窓口まで案内したこと

もありました。マイナンバーカードは使い勝手が悪いと言う方が多いようですが、果たしてそうでしょうか。私は、写真つきの身分証明書としてとても使い勝手がよいと思っています。いつもバッグに入れて持ち歩いております。たまにですが、銀行や郵便局などで身分証明書がなくて手続きができず、戻されている人を見かけることがあります。前にも話しましたが、写真つきの身分証明書となるということをもっと積極的に周知すべきであると思います。政府は2022年度末までに、ほぼ全国民のカード取得を目標に掲げていますが、なかなか取得率が向上しないのに業を煮やして、総務省は6月、2023年度の地方交付税について取得率に応じて配分額に差をつける方針を表明しました。また9月には、2023年度に創設し自治体に配分する予定のデジタル田園都市国家構想交付金の一部について、住民のカード取得率が全国平均以上でなければ受給を申請できない仕組みにするという、政府が検討している新たな方策が判明したと報道されました。同交付金はデジタル技術を活用した地域活性化事業を支援するのが目的であり、検討中の案によると、交付金の一部は全国のモデルになるような事業を実施する自治体に配る。ただ、カードの取得率が全国平均以上で、全住民の取得を目標に掲げていなければ受給を申請できないとのこと。誠にふざけた話ではありますが、これが実行されれば我が大館市は全国平均を僅かに下回っているので、ゆゆしきこととございます。市民課のみならず、市役所全体でマイナンバーカード取得率の向上に取り組んでいかなければならないと思いますが、市長のお考えをお伺いいたします。

次に、**旧小坂鉄道踏切の御成町一丁目付近の交差点に信号機を設置すべきであるについて**お伺いします。この件につきましては、以前に同僚の小棚木議員が質問しておるわけですが、一月ほど前にこの交差点で危うくぶつかりそうになりましたので、今回質問させていただくことにしました。私は絵夢人倶楽部という、月に1回男女共同参画センターを会場に主に無声映画、サイレントムービーを見る会を催している会に所属しております。この絵夢人倶楽部では、大館で唯一の映画館、御成座をなくなさないように応援してまいろうということで、なるべく多くの映画を御成座で見るようにしております。それで私も全ての映画を見るというわけにはいきませんが、なるべく多くの映画を見るために御成座に通っております。また、会議があれば秋田市にも行かなければなりません。その折に、ここの交差点をほとんど通ることになります。ここの旧小坂鉄道踏切の交差点は、御成座方向から二丁目方向に曲がるためには、釈迦内方向から来る車、それから二丁目方面から来る車、さらには代野方面から来る車の三方向に注意を払わなければ右折することができません。非常に危険な交差点であると思っております。それで、右折を避けるためにむしろそこを通らないで、例えば、花善さんの方向から来て、釈迦内方向から来る車線に右折して入って二丁目方向に行くということも考えなければならぬと思っております。先日、釈迦内方向から私が直進して、その交差点に差しかかったときに、代野方向から来る車が一時停止を怠り危うくぶつかりそうになりました。それで今日の質問になったわけとございます。一時停止すれば問題なかったのですが、私もスピードを出

しておりませんでしたし、代野方向から来る車もすぐ止まりましたので危うく衝突は免れましたが、とても危険な交差点でございます。ここの少し変則的な十字路でございますが、県警とか公安委員会と協議をして何とかここに交通信号機を設置してもらえるように頑張りたいと思っております。市長の御見解をお伺いいたします。

以上で、私のここからの質問を終わります。どうもありがとうございました。(拍手)

〔12番 花岡有一君 質問席へ〕

〔市長 福原淳嗣君 登壇〕

○市長（福原淳嗣君） ただいまの花岡有一議員の御質問にお答えいたします。

大きい項目の1点目であります。この点につきましては、まさに花岡有一議員御案内のとおりであります。今年の6月に国が作成したデジタル田園都市国家構想の基本方針においては、普通交付税の算定にマイナンバーカードの普及状況を反映させることと、また、来年度創設されるデジタル田園都市国家構想交付金の一部については、カード交付率が全国平均以上の自治体でなければ申請できないことが現在検討されています。こういう状況に対して全国知事会においては、各自治体から困惑の声が上がっているため、地方自治体の意見を十分踏まえた制度設計を行うことを国に要請しています。市としてもこの動向を注視しています。確かに、いきなり全国平均より下だから交付金を減らすという議論よりも、マイナンバーカードを持って得られることのメリット、便益をもっとつくったことのほうが交付率が上がっていくのは自明の理ですので、ちょっと議論が乱暴だなというのは確かにそのとおりだと考えております。本市の交付状況について御説明申し上げたいと思います。令和4年3月末は38.6%でした。このときは全国平均が43.3%でしたので、約5%下回っていました。しかしながら、花岡有一議員御紹介のとおり、商業施設あるいはワクチン接種会場、きりたんぽまつり等のイベント会場での出張申請サポート、1日に1,000件、2,000件という申請がございました。国のマイナポイント事業の後押しにより、うれしいことに10月末では50%を超え、11月20日現在は53.4%と全国平均の52.8%を上回っています。カードは公的身分証明書としての利用あるいは各証明書のコンビニ交付等の利便性、便利があるのですが、相変わらず安全性に対する誤解があると感じています。そのため、カードを持っている皆さんは御存じですが、顔写真がついていますので、いわゆるなりすましは絶対に防ぐことができるということ、それから情報の取得の際には暗証番号が必要でありますので、こういう部分を何回もPRする必要があると思っております。また、ICチップが内蔵されていますが、プライバシー性の高い情報は入っていないのだということも周知することが必要だと思います。今、国のほうでも様々な面でこういう形で使っていきたいということも考えているようですので、ぜひ市も連携して取り組んでいきたいと思っております。ちなみに、春の1カ月のデータで全国の自治体の中で一番伸び率が高いということで、総務省自治税務局の審議官から直接激励と頑張ってくれという電話を頂いた件以降、政治に物すごく興味がある、野心を持っている成田市民部長が、何とか池田審議官室に行けるよう

に本当に私ごととして今頑張っているところでもあります。

大きい項目の2点目であります。花岡有一議員御指摘の交差点の安全対策については、これも花岡議員御紹介のとおり令和3年6月定例会で小棚木政之議員から同様の指摘があり、再度、北秋田地域振興局と秋田県警大館警察署と協議を重ねました。その結果、県の公安委員会へ信号機設置の要望を行うこともでき、現在、地元選出の3人の県議会議員の先生方にもお力添えをいただいております。というよりも、実際動いてもらっています。その情報がどんどん入ってきています。現在秋田県では、この交差点を含む大館駅から御成町二丁目までの区間の道路で無電柱化工事を進めていまして、将来的な信号機の設置にきちんと対応できるように――要は、設置するときには工事が必要ですので、埋設設備の調整、それから設置場所の確保等を検討していただいております。引き続き、信号機の早期設置を秋田県公安委員会へ要望するとともに、県においては減速を促す路面標示の施工をお願いするなど、まずは市民、地域住民の皆様が安全に通行できるよう取り組んでいるところでもありますので、御理解を賜りますようよろしくお願いを申し上げます。

以上であります。よろしく御理解を賜りますようお願いを申し上げます。

○12番（花岡有一君） 議長、12番。

○議長（藤原明君） 12番。

○12番（花岡有一君） 1点再質問させていただきます。1番の件ですけれども、今市長がおっしゃったように、やはり住民の方が心配しているのは、落としたときに医療の履歴が分かられてしまうのではないかとかで、心配されている方がたくさんいます。そういう人たちのために不安を解消することが重要ですし、あと、利便性は政府が考えていかなければならないのですけれども、そのことをまず周知していかなければならないと、前に申し上げました。免許証を持っているのであれば別ですけれども、写真付の身分証明書って持っていない人が結構いるのです。写真付の身分証明書になりますから、ぜひ作ってくださいということも併せて宣伝していただきたいと思います。さっきも話しましたけれども、銀行とか郵便局でも戻されている人が結構いるのです。そういうことも含めて、私は身分証明書として使うのは最も楽でいいなと思っているので、その辺も併せて宣伝、周知していただきたいと思います。その辺について御意見をお伺いします。

○市長（福原淳嗣君） 議長。

○議長（藤原明君） 市長。

○市長（福原淳嗣君） ただいまの花岡有一議員の再質問にお答えをいたします。まず、顔写真付の身分証明書、非常に有効だという点をこれからはしっかりとPRしていきたいと考えております。先般、うちのたつみ町にコミュニティセンターあるのですけれども20人ほど集まって申請しました。そうすると、集まってきた町内会員同士が、花岡有一先生が心配されている点を話すのです。そのことに関して、一つ一つ丁寧に市の職員が答えまして、終わった後、こ

んなに利便性、便利なものがあるとは思わなかったということで非常に喜んでくれているので、申請の雰囲気づくりも非常に重要だということを今回のたつみ町の申請で実感いたしました。あと、利便性は政府が考えるべきことだという花岡議員の一言は非常に重要だと思っています。現実の話をお願いします。霞が関で要望活動するとき、身分証明書をお願いしますと言われます。運転免許証を出しました。使えませんという省庁があります。運転免許証は使えない。それで、身分証明書と市役所で発行している身分証明書で入ることができるということもあって、そのところもばらばらなのに、全国平均を下回っているところは交付金を減らすという議論は本当に乱暴だと思いますので、そこは何回も口酸っぱく、これでよいのかということは全国市長会を通じてきちんと行っていきたく思いますので、御理解を賜りますようよろしくお願いを申し上げます。

○議長（藤原 明君） 次に、笹島愛子君の一般質問を許します。

〔16番 笹島愛子君 登壇〕（拍手）

○16番（笹島愛子君） 笹島愛子です。9月議会では質問前日にコロナの陽性が判明し、質問の通告をしたものの10日間の議会欠席となってしまい、大変御迷惑をおかけいたしました。それでも重症化することなく戻ってこられて安心してあります。今回は7項目について簡潔に質問しますので、市民要望が実現できる御答弁をお願いするものです。

1点目です。学校給食費についてお聞きします。子育て応援の一環として、隣、青森県青森市のように給食費の無料化を考えるべきではないかということです。給食費につきまして、私は6月議会で物価が上がっている中ではありますが、本市としては給食費の引上げをしないよう求めたことに対し、教育長は「大変な中ではありますが、今年度は値上げしない」旨、御答弁され安心はしましたが、今年度はよしとしても来年度はどうなるのかと心配されている市民の方もおられます。そこで私は、人の体をつくる基本の食については教育の一環として捉え、教科書と同様に今こそ無料化すべきと考えるものです。青森市では、この10月から無料化されたことが大々的に報道されました。全国的には多くの自治体で無料化されておりますが、県都の青森市、特に中核都市での無料化ということで話題になったものと思われまます。しかし、実施にこぎ着けるまでは、様々な団体が立ち上がって市に働きかけたりしながらの市民運動が広がり、市が無料化に踏み切ったとのこと。ある新聞には、小・中学校給食費無料化、中核都市で全国初、青森市で実現などと報じているのを見て、青森市はすごいなと感動しました。やはり、若い人たちが子育てしやすい環境をつくりあげることがとても重要だと思います。本市におきましても無料に踏み切るため、教育委員会だけではなく市長部局とも一緒に意見を出し合い、実現できるように取り組んでいただきたいのですが、市長はいかがでしょうか。

2点目は生活保護基準についてです。まず、生活保護基準は物価高に見合う引上げを行うことが必要ではないかということです。過日、ある新聞に「生活保護、偏見なくしたい」という

見出しが目に入り、読んでみますと「わたし生活保護を受けられますか」という本を出版したという内容でした。書いた方は何と40歳女性で行政書士の方でした。書いたきっかけは、自分の経験を踏まえ、制度への偏見が邪魔をして貧困から抜けられない例が多い。正確な情報を発信し、偏見をなくしたいというものでした。この本を私はまだ買っていませんが、ぜひ買って読まなければと思っていますところです。そこで私ごとですが、この間の議員生活の中で様々な相談を受けましたが、とてもつらく心が痛んだのが、生活保護を申請したいと相談されたことでした。ここで詳細は述べませんが、結論だけお知らせします。この方は結果的に生活保護の申請はしませんでした。これはほんの一例です。このような中、急激な物価高が国民の暮らしを直撃し、所得の低い人ほど深刻な影響を受けているとの報道がある中、生活保護基準引下げの決定は違法だとし、横浜地方裁判所が減額取消しを命じる判決を言い渡したとの報道もありました。いずれにしても、生活保護の基準は様々な制度の基準にも連動します。特に、小・中学校の就学援助や保育料の減免など40もの基準に連動し国民生活に影響を及ぼします。市民の暮らしに大打撃を与えないよう基準の引上げを求めるべきです。市長の御決意をお聞かせください。

3点目は**介護保険制度の改定**についてです。介護保険制度の改定は史上最悪になる危険が。改悪、つまり悪いほうに変えるのから、改善、よくするほうに改定するよう政府に求めることについてです。厚生労働省は、11月9日の社会保障審議会介護保険部会で介護保険制度改定を提案しましたが、各新聞が連日報道しておりますので皆さんも御承知のこととは思いますが、様々な団体の動きや専門家の方、また、大学教授なども危機感を述べておられます。ここでは、介護保険の改定する問題点の詳細は述べませんが、若い世代の方々にも影響を及ぼすものであり、何としても改悪しないよう市長には積極的に取り組んでいただきたく取り上げたものです。そこで今回は、東京大学名誉教授の上野千鶴子さんの活動についてお知らせし、市長のお考えをお聞きするものです。上野教授は、1つに自己負担、今の1割から2割を標準にするな、2点目は要介護1・2の訪問介護、通所介護を地域支援総合事業に移すな、3点目はケアプランを有料化するな、4点目が福祉用具の一部を今までレンタルしてあったものをレンタルから買取りにするな、5つ目が施設にロボットを導入して職員配置を減らすななどを掲げています。詳しく見ますと本当に怖くなります。このような中、全日本民主医療機関連合会が行った介護保険見直しに関する緊急影響調査の結果、その速報を公表したとありました。例えば、利用料が2倍になれば入所している施設から退所すると答えた人が13%、在宅サービスを利用している人はサービスの利用回数や時間を減らす、サービスの利用を中止するなどの回答も34.4%を占めたとあります。いずれにしても、本人はもちろん家族にも深刻な影響が出るおそれがあります。介護保険制度の改定について市長のお考えをお聞かせください。

4点目は**中学校の制服**についてです。寒さ対策としても中学校の制服にズボンの着用を認めることについてお聞きするものです。着るものの名称も時代とともに変化していて、私たちの

時代はズボンでありましたが、現在はスラックスとかスパッツとかパンツなど様々です。私は長年雪国の寒冷地に住んでいるのに、なぜ女子はスカートなのか、女だから冬でもスカートをはくべきなのか深刻に考えていました。薄着して学校でも家でも暖房を強くすることが当たり前になっているかもしれませんが、私は環境面からもジェンダー平等の観点からも制服は選択肢を広げるべきだと思っているものです。特に冬の吹雪の日、スカート通学している生徒たちを見ると思わず身震いします。最近、制服や校則などについて率直な意見交換が行われているとの報道も多くなったようですが、雪国の、そして本市の寒さ対策として、また、ズボンが好きな生徒のためにも選択肢を広げるべきと考えますがどうでしょうか。しかし、これはあくまで選択することであって強制するべきではないということを強調しておきます。これについては、教育長のお考えをお聞かせいただきたいと思います。

5点目は**持続可能な農業**についてです。災害に強い農業、生活できる農業、安全な食料を生産できる環境づくりで、若者の定着に結びつけることについてです。8月の大雨により市民は大きな被害を受けました。床下・床上浸水など、家屋の被害など後片づけが本当に大変だったと思います。災害は忘れた頃にやってくるとも言われますが、災害が起きても大丈夫のように、しかし、最悪の場合でも被害が小さく済むような対策をしておくということが、改めて今回教訓になったのではないのでしょうか。今回は私たちの命の源となる農業に絞ってお聞きます。それは今も述べましたけれども、災害に強い農業であること、生活できる農業、そして安全な食料を生産できる環境づくりに尽きます。この大雨により大きな被害を受けた比内地鶏を育てている方々が立ち上がれなくなるような知事の発言など、全国的にも大きな波紋が広がりました。私たちは自然とともに生活しているわけです。ですから、自然を無視することはできないし、災害をある程度想定しながら対応するのが行政の役割でもあります。特に、農業の分野でも世代交代は不可欠です。若い人たちが、大館市は災害対策にしっかり取り組んでいるから農業に携わってみようと思ってくれるよう対応するべきと考えますが、市長は本市の農業への思いがどれだけ深いのかお聞かせください。

6点目は**扇田病院**についてです。来年の市長選に出馬される予定なら扇田病院は守るとの方向性を改めて示し、市民が安心して新年を迎えられるようにするべきではないかという通告をしましたが、昨日の新聞では3選出馬すると表明したとありましたので、なおさら扇田病院は守ると表明するべきではないでしょうか。扇田病院を守る会から議会に提出されていた扇田病院の無床診療所化に反対する請願が4回の継続審査を経て、さきの9月議会において賛成が9人、反対が16人で不採択となりました。市民の方からは、とても残念だとの声は多く聞かされましたが、市長はこの間ずっと守ると言ってきた経緯がありますので、まだ期待を持っている方もおられるようです。最初は守ると言い、その後、無床の診療所にするに変更したわけですので、再度、やはり守るに変更もあるのではないのでしょうか。命のとりででもある扇田病院は守るとの方向性を示して、市民が安心して新年を迎えられるようにしていただくことを願う

ものです。改めて扇田病院への思いをお聞かせください。

最後に7点目です。**非核・平和都市宣言碑の移設**についてです。非核・平和都市宣言碑は、市民の目につきやすい場所に移設することなどについてです。過日、非核・平和都市宣言碑の移設を考える会の方から、移設する際にはできるだけ来庁者の目につきやすい場所に移設してほしいなど、数項目の要望を市に話してあるので、ぜひ実現できるようにしていただきたい旨お聞きしました。この碑は市民に誇れる大切な碑であります。市としても、歴代市長が大事にしてきたものでありますので、来庁された市民だけに限らず、小学生、中学生などにも見てもらい、平和の大切さを胸に刻んで、後世につなげてもらいたいものです。そのためにも、話し合いを進め、みんなが納得できる形で移設するべきと考えますが、市長いかがでしょうか。

7点にわたって胸にしっかり落ちるような答弁を期待して終わります。(拍手)

〔16番 笹島愛子君 質問席へ〕

〔市長 福原淳嗣君 登壇〕

○市長（福原淳嗣君） ただいまの笹島愛子議員の御質問にお答えいたします。

大きい項目の1点目であります。まずもって笹島愛子議員におかれましては、学校給食法という法律があります。この学校給食法においては、給食費は保護者の負担を原則としています。しかしながら、大館市においては低所得世帯に対して給食費の支援を行ってきたほか、特に今年度においては材料費の高騰による保護者負担を軽減するため、値上がり相当分の給食費について補助を実施するなどの対策を講じてきたところであることをぜひ御理解をいただきと思います。今、子ども庁の創設に向けていろいろな議論がされています。私も笹島議員御紹介のとおり、県庁所在地の青森市で無償化を行ったというのは非常にエポックメイキングな出来事だと捉えております。こうした議論の先にどういう形があるのか、できれば給食そのものを地域の産業の活性化に位置づけて議論できないかということも、私は個人的には考えています。一朝一夕にはいきませんが、この点については逃げずに議論を深めていきたいと考えていることを、ぜひ御理解いただきたいと思います。

大きい項目の2点目であります。国においては現在議論されております新年度の予算編成の過程において、まさに国民の消費動向、そして、今日本国内外を含む社会経済情勢を総合的に勘案して、生活保護の基準の改定の議論を進めております。特にウクライナ戦争が起こってからの物価の高騰を受けまして、国民の消費動向は著しく変化しております。市としても、こうした国の議論を注視していきたいと考えています。この点におきましても、大館市では、特に住民税非課税世帯などを対象とした事業として、昨年度は臨時特別給付金、そして灯油購入費助成事業を実施したほか、今年度においては、まずは国の事業においては1世帯当たり5万円を支給する電力・ガス・食料品価格高騰緊急支援給付金。県の補助事業になります、1世帯当たり1万5,000円を支給するエネルギー・食料品価格高騰対応緊急助成事業などの支援策も行っております。家計が急変した世帯、いわゆる経済的に厳しい世帯に対して確実に物価高騰

に対応した支援を実施できていると認識しております。

大きい項目の3点目であります。笹島議員御紹介のとおり、国が令和6年度の介護保険制度の見直しをしていることは承知しており、現在、諮問機関である社会保障審議会において議論を重ねているところであります。介護度にも高い低いがあります。より介護度が高いものには国が関わるようにする。介護度が低いものについてはできるだけ地方で対応してもらおう。そして、これこそが長期的な視点に基づいた、まさに介護保険制度の持続可能性を担保する上で必要ではないのかという点が、今回のこの議論で一番重要だと考えております。私もいずれ介護保険制度にお世話になるわけです。介護が必要となっても住み慣れたこの地域で安心して、人として誇りを持って暮らすことができる地域社会の実現がとても重要だと思っております。市長会などを通じて国へ積極的に働きかけていきたいと考えております。

大きい項目の4点目、中学校の制服につきましては、後ほど高橋教育長からお答えを申し上げます。

大きい項目の5点目であります。まず、今回は8月に大雨がありました。大館市としましては、まずはこの災害の復旧、復興に向け、特に来年の作付に間に合うよう農地・農業施設の早期復旧に努めております。また、平時から国そして県と協議しながら、災害に強い生産基盤環境の整備を進めてまいりました。持続可能な農業、いわゆる経営的に持続するということがあります。まず作る場所としてのインフラ、いわゆる圃場整備の基盤の整備事業、大型化です。それからスマート農業機器の導入による省力化・効率化、あるいは有機栽培など高付加価値化を推進することを通じて、農家の皆様方の所得の向上に現在努めています。また、これらの従前の取組を充実させることに加えて地域おこし協力隊、いわゆる外から来た方々の目線で大館の農産物のブランディングを現在進めております。稼ぐ農業の大館モデルをつくっていきたいと考えており、このような取組を通じてぜひ若い世代に大館の農業に魅力を感じていただけるようにしたいと思っております。先般、大館あるいは県の事業を使って大規模に営農している若い営農者と直接話をすることができました。枝豆であったりニンニクであったり、そういうのを取り組んでいる方々。非常にうれしいのは、行政のほうに提出した計画を前倒して達成しているということ。そして、これまで営農してきた方々が単発で売っていたものを御自身で買って、そこで量を集めるので価格競争力が生まれます。今までにない流通にまで手を加えることを通じて、大館の農業所得を高めているということに物すごく自信を持っていました。農業は明らかにこういう若い世代が担ってきてくれていると思っております。あともうひとつ。実際いろいろなところでトップセールスに行くと、大館の農産物が欲しいと——この間、渋谷ではサラダ専門店がアスパラガスとかそういうものが欲しいということになりました。ただし、こういう情報は産業部ではなくて観光交流スポーツ部から入ってくるのが非常に多く、横串をどうやってつなげていくのかというのは、今、畠山部長と阿部部長のところまで話をしてもらっております。大館の農業は来年のハチ公生誕100周年祭に向けて、なおのこと都会の注目を浴びる

ことになる。そういうことに若い世代の方々に対して、成長産業になる農業に期待を持って就農していただけるよう働きかけていきたいと考えております。

大きい項目の6点目です。笹島議員と私は確かに政治的な立場が違います。ですので、様々な医療政策においていろんな議論がされることは、民主主義の性格上、非常によいと思っています。そして、何回も申し上げますが、吉原病院事業管理者をトップに、外部の有識者を交えて病院事業経営戦略会議で冷静な議論をしていただいております。こうした中において、私は医療を選挙利用することは絶対にしません。吉原管理者におかれましては、公平に公明に議論をしていただきたいと思います。病院事業経営戦略会議においては、現在、診療所案を基本としながらも、ほかの様々な可能性についても検討を重ねているところであり、この様々な可能性の検討については、先般、佐藤賢一郎県会議員から県のほうでも高く評価をしていると教えていただきました。全市的な観点あるいは二次医療圏としての観点、医療連携による持続可能な医療提供体制と合わせて、それが介護にもつながっていくわけであります。扇田病院の持つ役割・機能をその中でお示しをしていきたいと考えています。これまで何回も申し上げてきましたが、将来にわたり比内地域に医療を提供する場所を残さなければならないという思いに変わりはないことを、ぜひ御理解をいただきたいと思います。

大きい項目の7点目であります。この非核・平和都市宣言碑であります。この宣言の持つ意味は、今、非常に大きいものがあると考えています。昨今の国際情勢を鑑みれば、この宣言の持つ意味は非常に大きいと考えていることを、ぜひ御理解をいただきたいと思います。移設先につきましては利用者の皆様方、つまり来ていただいた方々の目のつきやすい場所がよいと考えており、駐車場とお堀との間にあります親水広場内に移設する方向で、今話をしております。

以上であります。よろしく御理解を賜りますようお願いを申し上げます。

○教育長（高橋善之君） 笹島議員の4点目、中学校の制服について。寒さ対策としての中学校の制服にズボンの着用を認めることはできないのかとの御質問にお答えいたします。まず、笹島議員には女子中学生の健康までお気遣いいただきましてありがとうございます。そもそも、大館では中学校女子生徒の制服について、冬季の寒さ対策、そしてジェンダーレス化の観点からも、これまでもズボン（スラックス）の着用を認めてまいりましたし、今後も認めないということはありません。各中学校の入学説明会の際には制服の実物を示しながら、ズボン（スラックス）またはスカートを選択できることを説明しています。どちらを選択するのかについては、あくまでそれぞれの個人の判断によるということになります。以上であります。

○16番（笹島愛子君） 議長、16番。

○議長（藤原 明君） 16番。

○16番（笹島愛子君） 一問一答で再質問させていただきます。今回、学校給食について、予算の関係もありますので市長のお考えをお聞きしました。それで、隣の青森市だけのことを言

いましたけれども、全国的にはかなりの自治体で無償化しています。市長は教育委員会のほうからもお聞きしてお分かりだと思いますけれども、例えば、青森県もそうですし、群馬県も相当無料化しています。それから長野、福島などが非常に多いです。群馬県だけの例を見ますと全額助成が14市町村、そして一部助成、条件つき助成が15自治体。未実施のところは6自治体と、すごいなと思いました。今この物価高にももちろん限らず、質問の中で言いましたけれども、教育の一環としてやはり将来的には無償化するようにしていくべきだと思います。特に今、それこそお父さんお母さんも働いているということもあって、手抜きをするということではなくて、やはりその地元ではこういうのがあるとかということをやっているという自治体もテレビなんかで報道されていますので、大館でもぜひそういう方向でやっていただきたいと思います。来年とかすぐに大きな予算はつけられないにしても、例えば、どこの学校でとかどこの地域からということをやめていただきたいと思いますのですけれども、その辺については考えていただけるのでしょうか。改めて御答弁をお聞かせいただきたいと思います。

○市長（福原淳嗣君） 議長。

○議長（藤原 明君） 市長。

○市長（福原淳嗣君） ただいまの笹島愛子議員の再質問にお答えをいたします。まず最初、学校給食法という法律があるという話をさせていただきました。その中の原則をきちんと遵守しながらも家庭的に厳しい世帯に関してはそれなりの対応をしているという政策の流れもお伝えをいたしました。全てを無償化にという議論ありきではなくて、どういう形で給食を供するのが一番理想的なのかということを中心にきちんと教育委員会サイドとも協議をしていきたいと思っております。このことに関しては、前向きに議論をしていきたいと考えていることをぜひ御理解いただきたいと思っております。

○16番（笹島愛子君） 議長、16番。

○議長（藤原 明君） 16番。

○16番（笹島愛子君） 時間がかかることだと思います。予算もそうですし。それで、今、資料を持ってこなかったのですけれども、10月の参議院の質問では無償化することに学校給食法が絶対駄目だと言っているわけではないという答弁もありましたので、ぜひ市長と教育長、教育委員会とお話をして、そういう方向でやっていただきたいとお願いしておきます。この無償化について教育長にもお聞きしてよろしいでしょうか。

○議長（藤原 明君） 暫時休憩します。

午後2時25分 休 憩

午後2時25分 再 開

○議長（藤原 明君） 再開します。

○教育長（高橋善之君） 議長。

○議長（藤原 明君） 教育長。

○教育長（高橋善之君） 給食費の無償化についての質問でございますが、先ほど教科書についても無償化になったという経緯がありました。でも、それはきちんと法律で定められてそういうふうに移行したわけでありまして、私は給食に関しても同じだと基本的には考えております。基本的に子供の食費は親が負担するものであるというのが、私は原則であると考えています。もちろん、そういうことができない家庭に対しては、いろんな公的な扶助によって供給するというのは、それも正しいと思います。そういう基本原則を変えるに当たっては、やはり国民的合意といいますか、要するに給食費を公的に負担するということですから、子供たちの給食費を市民の方々がみんなで負担するということですので、そういう意味ではしっかりした合意が前提になると私は考えています。以上です。

○16番（笹島愛子君） 議長、16番。

○議長（藤原 明君） 16番。

○16番（笹島愛子君） 次の再質問です。生活保護の関係ですけれども、おととい、3日付の北鹿新聞さんの一面に、福祉まるごと相談ということで、こんなにたくさんの相談があるというのを見て驚きました。その中には食べるものがない3.6%と切実な悩みも寄せられたとあります。大館市で食べるものがないという相談があるとはすごいな、大変だなと思いました。生活保護の基準については市長のほうからいろいろありましたので、あと1点だけお聞きしたいと思います。やはり今新しい市役所になって、生活保護係とかのカウンターがありますけれども、私は相談に来られた方が生活保護のところで相談しているのではなく、何かしらのネーミングも変えながら、市役所もそういう方向でやるべきではないかと思っておりますけれども、これについてだけお聞かせいただきたいと思っております。

○市長（福原淳嗣君） 議長。

○議長（藤原 明君） 市長。

○市長（福原淳嗣君） ただいまの笹島愛子議員の御質問にお答えをいたします。市民の皆様が表記に対して持たれるイメージは非常に重要だと思っています。先ほどの一般質問でも話しましたがけれども、総務部の使命は何だとか、私はできるだけ漢字を使わないようにしようということ呼びかけていますので、その点に関しましても柔軟に対応したいと考えています。

○16番（笹島愛子君） 議長、16番。

○議長（藤原 明君） 16番。

○16番（笹島愛子君） では、次の再質問です。扇田病院についてですけれども、この間たくさん新聞の報道がありました。議会の関係もあって新聞のコピーをこんなに積んであったのですけれども、昨年8月25日付の魁新報を改めて見たのですが、扇田病院についてこのように書いていました。結構なコラムでした。八戸で暮らす男性43歳です。「両親のかかりつけ医の

病院が近くにあるから離れていても安心できる」と話し、最後のほうに「住民らの希望はこれまでどおり地域で安心して暮らせることだ。病院の理念は地域の皆様の心の支えとなる。大館市の病床廃止の計画は住民の思いや病院の理念に応えられるものだろうか」と書いてあるのを見つけました。私は、市長が扇田地区に医療はきちんと残す、診療所として残すということを繰り返し言ってますけれども、私が繰り返し言っているのは、まず守ると言ったことは、あの病院をまず守るとのことだと思っております。私は、2019年の12月議会で質問したときの市長の答弁を、本当に今までにない、この議員生活の中で一番の宝物としてずっと取っていました。こんなにもはっきり揺るがない、守ると言った答弁を——歴代の市長さんともいろいろありましたけれども、本当に繰り返しますけれども、宝物の答弁として私は持っていました。それで、もう一回、再度お聞きしたいと思うのは、やはり扇田地区に医療は残すと言ったのは、無床の診療所として残すから医療は残るのだということを確認してよろしいでしょうか。

○市長（福原淳嗣君） 議長。

○議長（藤原 明君） 市長。

○市長（福原淳嗣君） ただいまの笹島愛子議員の御質問にお答えをいたします。改めて申し上げたいと思います。今、吉原病院事業管理者を中心に大館市病院事業経営戦略会議で議論を重ねている最中であります。そのことをぜひ御理解いただきたいと思います。それと、もう一つ、病院を守るという、その病院という言葉に固執している限り、私は時代の適用にかなった大館市の病院事業はつukれないと、開設者として認識をしております。医療を提供する場を残すということは、医療行為の本質を示しています。これまで吉原管理者が幾度か答えている中で、私は至言だなと思ったのは、冷静に鑑みれば患者さんの数が一番多いところにあるべきだ、しかしながら、というその一節です。大館市病院事業管理者として、そこをきちんと第三者的に客観的に議論をできている、この今の経営戦略会議の議論を私は大切にしたいと考えていることをぜひ御理解いただきたいと思います。

○議長（藤原 明君） この際、議事の都合により休憩いたします。

午後 2 時 32 分 休 憩

午後 2 時 40 分 再 開

○議長（藤原 明君） 休憩前に引き続き、会議を開きます。

田中耕太郎君の一般質問を許します。

〔10番 田中耕太郎君 登壇〕（拍手）

○10番（田中耕太郎君） 令和会の田中耕太郎です。質問の前に、来年も市長をすることを前提に学校給食費無料化の問題を笹島議員から取り上げられて、市長、幸せですね。もう受かったと同じです。12月になったと思ったら既に5日目を迎え、年越しが足早に駆け寄ってきてい

るようで、小さい頃だったら指折り数えて待っていた正月も、この歳になってきますと、いろんな意味で逆になければなくてもいいような感じがしておる昨今でございます。さて、おととい、3日の日、正式に次期市長選へ立候補を表明した福原市長に、今日は2点質問をさせていただきます。時に、半可通な知識を振り回すような質問をする方もおりますが、市長はスルーすることなく丁寧にいつも答弁を繰り返しております。一貫性を維持しながら目的を見失わない福原市政は、多くの市民の納得するところでございます。ソニーの故盛田昭夫社長が言っていた「夢、挑戦、実行」。私は市議会議員に立候補したその瞬間からこの言葉を自分の政治スローガンにしておりますが、夢を逆風に突き進む原動力に変えて、これからも大館丸の船長でいてほしいと願う一人でございます。先月、11月26日土曜日、秋田市で秋田県林活議員連盟連絡協議会に出席をしましてまいりました。通り一遍な会で終わると思いきや、秋田県森林組合の佐藤重芳会長さんの講話を聞き、日本全国土面積の70%以上を占める森林を有する我が日本においてじわじわ進むその荒廃の様子が、今後の日本に及ぼす影響について、大変危惧の念を持って話されていたのを聞いて、真剣に取り組むべき問題と私自身の森林に対する認識を変えるべきと思って帰ってまいりました。我々人間の手によって壊したものは、我々人間の手によって修復してあげなければならないと痛感させられました。しかも、それらを森林、林業、木材関連産業の活性化はもとより、林業の成長産業の実現に向けた取組の中で解決していくべき課題と私は思っております。

それでは1つ目の質問に入ります。**林業成長産業化について**。林業成長産業化の取組が全国的に高い評価を得ましたが、どのような取組をしてどのような成果を得たのか。また、ゼロカーボンシティを宣言し、林業振興策はますます重要となってきましたが、今後はどのような取組をしていくのかお聞かせ願いたいと思います。10月25日と26日の地元新聞に、大館市が取り組んできた林業成長産業化の取組が、第10回プラチナ大賞の最終審査において、大賞に次ぐ優秀賞を受賞したとの記事が掲載されました。新聞には東京の神田明神ホールにおいて、福原市長自らがプレゼンテーションを行う姿も掲載されました。ちなみに、このプラチナ大賞の最終審査は10月24日に開催されておりますが、聞くところによりますと、市長がパリから帰国し大館に戻ったのが10月23日、翌日24日の朝には大館能代空港発第1便で東京に行き、午後にはプラチナ大賞のプレゼンを行ったそうであります。さらには、その翌日25日の羽田発第1便で大館に戻り、面談を2件終えた後に午後からは庁内各部署との政策協議に臨まれたとのことでありました。時差ぼけを物ともしない福原市長のタフネスぶりには本当に驚かされます。福原市長をあえて例えるなら、AI付人間型ロボットとでも言ったらよいでしょうか。また、私も何度か福原市長に同行をさせていただきましたが、国に対する要望活動に加え、全国各地の自治体や企業との政策連携において、飛び回るように仕事をされている福原市長の姿を拝見して、ただただ感心しております。話をプラチナ大賞に戻しますが、本市の林業成長産業化の取組が全国レベルの表彰を受けたということで、大変うれしく思いましたが、同時にプラチ

ナ大賞とは何ぞやという興味が沸きました。そこで私なりにプラチナ大賞について調べてみましたが、プラチナ大賞とは一般社団法人プラチナ構想ネットワークが主催するもので、社会や地域の課題解決に向けた先進的な取組をたたえ、その取組を広く社会に発信することを目的として実施しているそうでございます。また、今回最終審査に残った15団体は、大賞を受賞した徳島県、高知県、岩手県一関市に加え、埼玉県、豊田市などの自治体と、東芝、東京大学などなどそうそうたる団体でありました。また、今回の優秀賞の受賞により大館市はプラチナシティに認定され、秋田県内では初の受賞となったそうであります。プラチナシティとは高齢化、環境、産業の3つの側面から問題解決を目指す社会、いわゆるプラチナ社会の実現に向けた明確なビジョンを持ち、具体的な取組を始めている自治体のことであります。さらには、本定例会の行政報告において林業成長産業化の取組がプラチナ大賞優秀賞の受賞だけではなく、東北農政局のディスカバー農山漁村の宝アワードの優良事例に選定され、一般社団法人日本ウッドデザイン協会のウッドデザイン賞を受賞したことも報告されました。令和2年度に林政課を新設する際に、課の新設ということで反対意見もあったことは記憶しております。本市の林業成長産業化の取組が全国的にも高い評価を得ているのは、林政課という専門セクションを設けて、林業振興に特化した仕事をしていることが一因であると思います。そこで、林業成長産業化として、これまでどのような取組をして、どのような成果を得たのでしょうか。具体的に教えてくださいたいと思います。また、国の目指すカーボンニュートラルの実現に向けて、そしてゼロカーボンシティを宣言して二酸化炭素実質排出ゼロを目指す本市にとって、林業成長産業化をはじめとする林業振興策はますます重要となると考えますが、今後はどのような取組を行うのかお答えいただきたいと思います。

次の質問に移ります。**大館の風土を生かし、幸せを築く「まち再興」**についてということでお聞きいたします。人口減少と高齢化に悲観することなく新たな価値観を創造し、共有し、誇りと希望を糧に市民が幸せを実感できる暮らしの実現に取り組んでほしいということでお聞きします。今年も師走を迎え、厳しい寒さが一段と疲れた体と心に深く染みわたる昨今でございますが、私は北国大館で育ち、大勢の皆様のお力添えのおかげで成長させていただいたことに、しみじみ感謝する機会が多くなりました。私はコロナウイルス感染症を有事と受け止め、冷静かつ柔軟に日々を過ごしてきたつもりですが、自由度が制限され生活様式が大きく変化し、いつの間にか大きなダメージを受けてしまったような気もしております。残念ながら昨年、今年大館市民が予想以上に多く亡くなられたことは、多様な要因があったと思いますが、我慢を強いる日々の蓄積が疲労となり御負担をかけたのではと悔い、その背景には寛容やお互いさまの文化が損なわれてしまったと感じております。感染症にひるむことなく市民が幸せを感じるまち再興を願い、大館の特徴を土地利用の観点から思考すると、全体の約8割を占める森林は秋田杉を基軸に昭和の繁栄を築き、昨今では森林環境税をキーワードに、さらなる経済発展や環境負荷軽減につながるものと着目しております。また、市全体の土地の約1割を占める農地

は長年稲作を中心に日本の食を支え、昨今は食生活の変化により生産とニーズに隔たりが生じ、耕作に至らない農地が増えているものの、食料供給の大事な母体であり、農業がなりわいとして魅力ある職業へ認知されることが大事だと痛感をしております。市全体の土地の約2%に当たる宅地や工業用地は、その7割が旧大館市に集中しており、市街地の空洞化が危惧される中で、待望の子育て拠点施設が年内にパークセンター内へ拡充完成予定と聞いており、併せて御成町南地区の区画整理事業が終盤を迎え、町の象徴となる核が少しずつ形成されてきました。一方、本市の製造業の基軸をなすニプロさんをはじめとする医療・健康産業が、現在の発展に結びついたのは、社員の皆様の御努力のたまものと創成期の御苦勞に加え、設備投資や拡張を御検討の際、マザー工場へと導くため多くの課題を乗り越えてきた成果だと感じております。このような状況下において、本市の特徴を踏まえ、少子高齢化社会を生き抜くためには、あらゆる分野でこれまでと同じ仕組みのままでは持続できないことから、制度設計の抜本的な見直しが必須であり、事業の縮小や撤退も視野に、確固たる理念と覚悟を持って臨むべきと私は思います。さらには気象状況が劇的に変動する中で、災害時の被害抑制策の重要性が再認識され、短期のリアルで役に立つソフト対策と、地勢を踏まえた中長期的なインフラ整備が日々の生活を守り、経済発展の下支えになると実感をしております。9月定例会の一般質問でも申し上げたとおり、治水、利水、エネルギー政策は三位一体であり後世に継承できる大事な資産につながることから、確実に推進していただきたいと思っております。福原市長には大館丸の船長として難題である人口減少と高齢化に悲観することなく現実を受け入れた上で、大館の風土や市民の気質を生かし、若い世代へ広く門戸を開きながら、新たな価値観を創造、共有し、誇りと希望を糧に、市民が幸せを実感できる暮らしの実現に取り組んでいただきたく、市長のお考えをぜひお聞かせ願いたいと思います。

最後になります、通告にはございませんけれども、先日会った友人から、俗に言うインバウンドで世界各地からいろんな外国人が来るようになって、こういうことがあったそうです。具合が悪くて病院に行ったら言葉がうまく共有できなかったということで、私もスマホというのは得意ではないのですが、無料で同時通訳のようなアプリを入れることができますので、消防の救急車の隊員、病院の急患のドクターにはお願いしていただきたい。これは、通告にないお願いでございますのでよろしく願いいたします。さらに再質問の必要のない福原市長の御答弁をお願いし、私の質問を終わらせていただきます。ありがとうございました。(拍手)

〔10番 田中耕太郎君 質問席へ〕

〔市長 福原淳嗣君 登壇〕

○市長（福原淳嗣君） ただいまの田中耕太郎議員の御質問にお答えを申し上げます。

大きい項目の1点目、林業の成長化についてであります。まず、平成27年5月に第5代大館市長に就任させていただいたときから林業分野、衰退産業と言われたものを成長産業に位置づけるということに腐心をしてきました。その中で私が一番着目したのは、当時私が仕えていた

代議士が自由民主党総合農政調査会長として議論していたときは、平成版太閤検地を日本国内の山林に全て行うことを通じて、山持ちにきちんと還元する制度設計を議論しなければならないということでありました。あまり知られていませんが、実は日本の一番の森林王というのは財閥系商社になります。要は、財閥系商社はデベロッパーとつながっていて、木材の需要を自分たちでつくり出せる。そこときちんとつなげていこうという議論でした。そのための財源として私が秘書官をしていたときに議論されていたのは、過疎法の対象を広げて山林に税金を投入する仕組みをつくろうというものでありました。それが森林環境譲与税の形になるという話を聞いたときに、私は林野庁長官を経て農林水産事務次官をされた皆川芳嗣さんのところに行って、一からどういう制度設計で変わったのかと聞きました。そこで私が気づいたのは、林野庁は林業政策に対して、やる気のある自治体を育てる作戦を取るだろうと。いずれその事業があったときは即断で挙げてほしい。そして、手を挙げるだけではなく、そこを実質的に進めていくには、いずれ森林環境譲与税が入ってくるのだから専門の課にしてほしいと。農林課のような宙ぶらりんの組織ではなくて、特化した組織にすると林野庁と同じスピードで仕事ができるはずだという助言を頂いて、そのときは林政課というアイデアはなかったのですが、そこは副市長や理事と相談をして農林課を農政課と林政課にするような流れができました。そうした中もあって、議会の先生たちの御理解もありまして、当時の治山課長か整備課長だった橋政行課長をお呼びして講演していただきました。実は、当時の橋課長は、今は国有林野部長です。いずれ林野庁長官になると思います。この部長が大館に来たがっているらしいのです。自分が講演したところでどんどん林業政策を進めていって、これが花開いていると。ぜひ大館にもう一回来たいということで12月議会が終わってから改めて国有林野部長のところに行こうと思っています。そういうこともありまして、まず私はいろいろ情報収集をして勉強を重ねた結果、平成29年度、林野庁の林業成長産業化地域創出モデル地域の選定をいただきました。そのことを受けまして大館北秋田地域林業成長産業化協議会を立ち上げ、様々な事業に着手したところでもあります。時あたかも、日本ができて以来、国内で一番築材料が多かったのが米代川流域でありまして、伐期を迎えた杉の蓄積量はピークに達しておりました。主な成果といたしましては、大館市が持っている市有林を活用することによって川上から川下まで会員同士の連携による木材を供給する体制、いわゆるサプライチェーンをつくることができました。伐採、再造林、原木の流通、木材の加工、そして利用までの一気通貫体制で事業を展開することができ、令和2年度においては過去最高の素材生産量年1万立方メートルを達成することができました。また、都市部への木材供給実績としては、渋谷区の子育て施設ネウボラ、それから豊洲ふ頭公園内のレストラン等があります。ちなみに、東京オリンピック・パラリンピックの選手村でも使われました。そこで供されたのは、秋田県の認証と大館市の材でしたが、秋田県はこてで本当に私の顔くらいで秋田県と書いているのですが、大館市は何と言いますか、細すぎて分からないという、本当に控えめだったのです。でも、きっちりと一番ビレッジホールの真ん中のいい

ところに使ってもらって、それも今となってはいい思い出になっております。そして、一番重要なのが山元への還元です。つまり、山林、森林を持っている方々への利益の還元であります。このことに関しては、まず原木販売単価を向上させました。再造林に向けた苗木出荷本数を増やしました。木質バイオマスの出荷量も併せて増加をさせました。これは田中議員御紹介のとおり、林政課があったからです。そして、林政課の特化したことによる効果というのが今年8月の大雨による災害対応においても、複数班による林道パトロールから災害査定の完了まで、迅速な対応につながることができました。ちなみに大館は林道15本です。あまり言いたくないのですが、1本しか認められないところもあるのです。これは林政課が即座に動けたからです。また、これからの林業成長産業化の取組については4つあります。1つは木材利用の促進に向けた新たなパートナー連携をつくることです。これは御紹介いただきましたプラチナ構想ネットワーク、そしてウッドデザイン協会での活動、プラチナ大賞をはじめとした各賞の受賞により、大館市の取組に関心を寄せている都市部の建築事業者が増えています。建築物木材利用促進協定、包括連携協定の締結、協議会への加入などを提案しながら、今度は取り組んでいきたいと考えております。2つ目は、デジタル林業戦略の拠点をつくっていくことでもあります。これは、林野庁が次期モデル事業と位置づけているデジタル林業戦略拠点構築推進事業を活用するものです。林業機械の自動化、遠隔操作化、森林資源情報のデジタル化、地域一体となってデジタル技術をフル活用します。生産性を高めることを通じて、持続可能な林業を実現していきたいと考えております。3つ目は非常に重要なのですが、森林認証の面積を広げていく広域化であります。これは日本国内だけではなく、ヨーロッパを基軸とする世界的な視点で捉えていかなければならない政策であります。この認証というのは適切に管理された森林から切り出された木材であることを証明するものです。例えば、渋谷区の公共建築物における木材利用推進方針があります。これには渋谷区が使用する木材の選定基準の一つに、この森林認証が掲げられています。今年度、市有林2,295ヘクタールの認証の取得を目指します。さらに今後、近隣の自治体、そして国有林を管理する森林管理署と——森林管理署のボスがさっき言っていた橘政行国有林野部長ですから、そこに私が行くということは森林管理署との連携、働きかけはより強固になっていくこととなります——米代川流域一体で認証材を供給できる体制を構築する。大館だけではないです。米代川全体にサプライチェーンを広げていく。秋田杉が本来持っているブランド力、競争力はさらに高めていきたいと思っています。4つ目です。共創の場形成支援プログラムを進めていくことでもあります。これからの日本を担う若者を中心に、秋田県内の3つの公立大学、そして計18機関が参画する産学官連携プロジェクトにおいて、秋田県の森林資源を多角的に活用することで、資源や技術を受け継ぎ、人材と文化の交流を促し、経済、産業を活性化させる新しい循環システムの構築を目指すというものです。ただ単に木を切って植えて刈っただけではなく、デザインも含めて社会に実装するところまできちんと知恵を出し続けるということです。このプロジェクトでは、低コストで製造する技術の開発、木質系プラ

スチックによる新産業の創出などに取り組みながら、市内に木材研究の拠点を形成してまいります。私は、この木質系プラスチックに非常に興味を持っていて、将来的には人を乗せた空飛ぶドローンを開発しているトヨタの子会社とトヨタ車体などと組みたいと思っています。セルロースナノファイバーというナノレベルまで木材を粉々にしたものを、新しい素材でプラスチックにするのですが、私たちは鉄が一番よいと思っているのですが、実はそうではないのです。F1とかそうですけれど、ぶつかったときに衝撃を緩められるので、鉄のように固いだけが求められているわけではない。そういった素材はロケットにも将来使われるそうでもありますので、木材の利用はこれから無限に広がっていくと考えています。このような林業成長産業化の施策を強くこれからも推進していき、あらゆる分野のステークホルダー、利害関係者との共創により、ゼロカーボンシティの実現に向け取り組んでいきたいと考えております。

大きい項目の2点目であります。大館の風土を生かし、幸せを築くまち再興ということで、田中耕太郎節全開のこの提案に関しては私も正直に同感であります。少子高齢化が進んだとしても、そこに住む私たちが幸せを実感すること、そして日々の生活を穏やかに過ごすことが大切。そのためにも、熱意を持ってこれからも多様な課題——課題があるということは知恵を出す機会だと捉えて全力で取り組んでいきたいと考えています。まずは、まち再興につながるソフト政策としてシビックプライド、大館市民であることのプライドを高めていく歴史まちづくり事業、市民が相互に支え合う心のバリアフリーをさらに啓蒙、啓発していきます。そして、町へ出る機会を増やす大館版m o b iプロジェクト、未来へインフラを継承する包括的民間委託——これは特に建設業と金融業において必ず必要になってきます。市民をはじめ多くの関係者から御意見、知見をいただきながら、今後も鋭意取り組んでいきたいと考えています。また、さらに8月の大雨による被害を痛切に受け止め、国や県などに対し、これまで以上に地域の実情を訴え、被災箇所を早期復旧、そして災害抑制の支援を要望した結果、御案内のとおり治水事業の前倒し、推進費の採択が実現しました。それだけではなく、先般、要望活動の中で県の建設部のほうから今回の河川法を見直してほしいという福原市長の思いに際し、県の中で勉強会を通じ、そこにうちは伊藤建設部長が入るのですが、冒頭、福原市長から、治水だけではなく利水もちゃんとこれから見てほしいということをお話してほしいと言われました。最初は建設部だけれども、将来的には二井田工業団地の利水も含めて産業部も入れていくとなると、うちのほうも横串で県と連携をして、今、河川法見直している国のほうに、こういう案があるということ具体的に提案していきたいと考えております。森林環境税、それから森林環境譲与税創設に関しては、水源税構想、森林交付税構想の議論、大館ですてきた議論がまさに結実をしたものです。温室効果ガス排出削減、それから災害の防止、森林整備に係る財源を地方へ安定的に確保できるという利点がこれらの制度にはあります。ゼロカーボンシティ、それから治山事業、林業の成長産業化に向けた政策をこれからはさらに加速をしていきたいと思っています。また、大館駅インランドデポ構想、野遊びSDGs事業、きめ細かな子育て支援、そして介護

で、介護は医療と結び付けていく必要があります。本市を応援してくださる実に多くの仲間、同志、皆さんとともに共創型のまち再興を目指していきたいと考えております。これからもあらゆる政策が単体で完結するのではなく、複合的につながり、しっかり重層的に展開できるような広い視野、視点で臨むことが重要だと考えております。市民が幸せを実感できる暮らしの実現に、これからも邁進していきたいと考えております。田中議員におかれましては、引き続き御指導御鞭撻のほどをよろしくお願い致します。

あと、先ほどアプリの話ありましたが、うちの虻川消防長は非常に前向きな方で、私が頼んでいないことになってしまう性格でありますから、十分に対応してできるものと考えております。

以上であります。よろしく御理解を賜りますようお願いを申し上げます。

○議長（藤原 明君） 以上で、本日の一般質問を終わります。

次の会議は、明12月6日午前10時開議といたします。

本日はこれにて散会いたします。

午後3時11分 散 会
